京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2023-4

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇二三-四

平安京右京三条二坊十二町跡・御土居跡・西ノ京遺跡

平安京右京三条二坊十二町跡・
御土居跡・西ノ京遺跡

2024年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条二坊十二町跡・
御土居跡・西ノ京遺跡

2024年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、集合住宅新築工事に伴う平安京跡・御土居跡・西ノ京遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

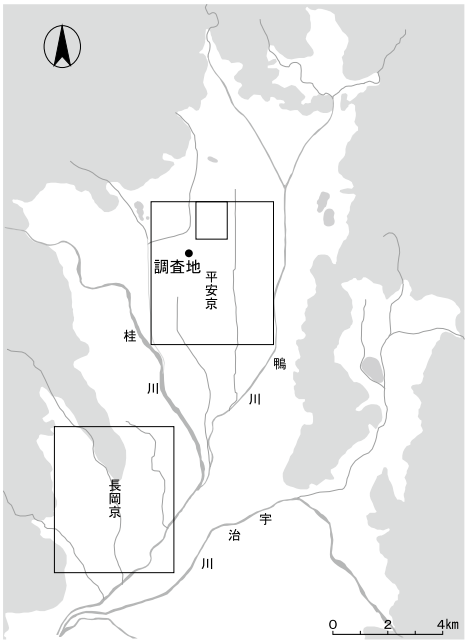
令和６年３月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	平安京跡・御土居跡・西ノ京遺跡　（京都市番号　20Ｈ027）
2	調査所在地	京都市中京区西ノ京新建町12－38（新建公園内）
3	委　託　者	京都市　代表者　京都市長　門川大作
4	調 査 期 間	2023年４月17日～2023年８月１日
5	調 査 面 積	476.45㎡
6	調査担当者	小檜山一良
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
12	遺 物 番 号	種類ごとに通し番号を付した。土器類は番号のみとし、瓦類は「瓦」を前に付けた。
13	本 書 作 成	小檜山一良・中谷正和
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



（調査地点図）

目　　次

１．調査経過 …… 1
（１）調査に至る経緯 …… 1
（２）調査の経過 …… 2
２．位置と環境 …… 4
（１）位置と環境 …… 4
（２）周辺の調査 …… 4
３．遺　　構 …… 8
（１）基本層序 …… 8
（２）遺構の概要 …… 9
（３）平安京遷都以前の遺構 …… 9
（４）平安時代前・中期の遺構 …… 10
（５）古代から中世の遺構 …… 12
（６）安土桃山時代以降の遺構 …… 12
４．遺　　物 …… 13
（１）遺物の概要 …… 13
（２）土器類 …… 13
（３）瓦類 …… 18
（４）動植物遺存体 …… 18
５．ま と め …… 19

図　版　目　次

図版１　遺構　第２面遺構平面図（１：150）
図版２　遺構　第１面遺構平面図（１：150）
図版３　遺構　１区・２区北壁オルソ写真（１：60）
図版４　遺構　１区・２区北壁断面図１（１：60）
図版５　遺構　１区・２区北壁断面図２（土層名）
図版６　遺構　２区東壁オルソ写真・断面図（１：60）
図版７　遺構　３区西壁オルソ写真・断面図（１：60）

図版８　遺構　３区北壁オルソ写真・断面図１（１：60）
図版９　遺構　３区北壁断面図２（土層名）
図版10　遺構　２区南壁中段断面図（１：50）
図版11　遺構　西堀川小路関連遺構平面図（１：80）
図版12　遺構　柱列30・51実測図（１：50）
図版13　遺構　１　１区第２面全景（北から）
　　２　２区第２面全景（西から）
図版14　遺構　１　３区全景（東から）
　　２　２区溝65（南西から）
図版15　遺構　１　２区西堀川小路関連遺構（北から）
　　２　２区溝47（北から）
　　３　２区溝47内 杭19・20（北から）
図版16　遺構　１　２区路面27（北から）
　　２　２区路面27セクション断面（南から）
　　３　３区路面42セクション断面（南から）
　　４　２区溝73、轍75・78（北から）
図版17　遺構　１　２区柱列30（南から）
　　２　２区柱列30柱穴38（西から）
　　３　２区溝29断面（南から）
　　４　１区柱穴群（北西から）
図版18　遺構　１　１区第１面全景（北から）
　　２　２区第１面全景（西から）
図版19　遺構　１　４区全景（西から）
　　２　１区堀１断面（南西から）
図版20　遺構　１　１区土塁４（北西から）
　　２　１区土塁４西肩礫集中部（北西から）
　　３　１区土塁４西肩部断面（南西から）

挿　図　目　次

図１　調査地位置図（１：5,000）　……　1
図２　調査区配置図（１：500）　……　2
図３　調査前全景（東から）　……　3
図４　１区重機掘削状況（南から）　……　3
図５　３区作業状況（北西から）　……　3
図６　４区作業状況（北西から）　……　3
図７　現地遺跡説明会（北から）　……　3
図８　中学生チャレンジ体験（北西から）　……　3
図９　周辺調査位置図（１：5,000）　……　4
図10　基本層序柱状図（１：80）　……　8
図11　溝65実測図（１：50）　……　9
図12　溝47 杭19・20実測図（１：40）　……　10
図13　路面27・42断面図（１：40）　……　11
図14　水溜55実測図（１：40）　……　11
図15　出土土器実測図１（１：４）　……　14
図16　出土土器実測図２（１：４）　……　17
図17　出土瓦拓影及び実測図（１：４）　……　18

表　目　次

表１　周辺調査一覧表　……　5
表２　遺構概要表　……　9
表３　遺物概要表　……　13

付　表　目　次

付表１　出土土器一覧表　……　21

平安京右京三条二坊十二町跡・御土居跡・西ノ京遺跡

１．調査経過

（１）調査に至る経緯（図１）

調査地は、京都市中京区西ノ京新建町12－38の新建公園内に所在する。平安京右京三条二坊十二町跡・西堀川小路跡、御土居跡、西ノ京遺跡にあたる。

新建公園内において、壬生東・壬生市営住宅団地再生事業に伴い、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）が試掘調査を実施したところ、安土桃山時代の御土居の堀が検出された。この成果を受けて文化財保護課から、発掘調査の指導が行われ、京都市都市計画局住宅室すまいまちづくり課（以下、「すまいまちづくり課」という）から委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

調査の目的は、平安京右京三条二坊十二町跡・西堀川小路跡、御土居跡、西ノ京遺跡の遺構の確認と、当地の歴史的変遷を明らかにすることである。

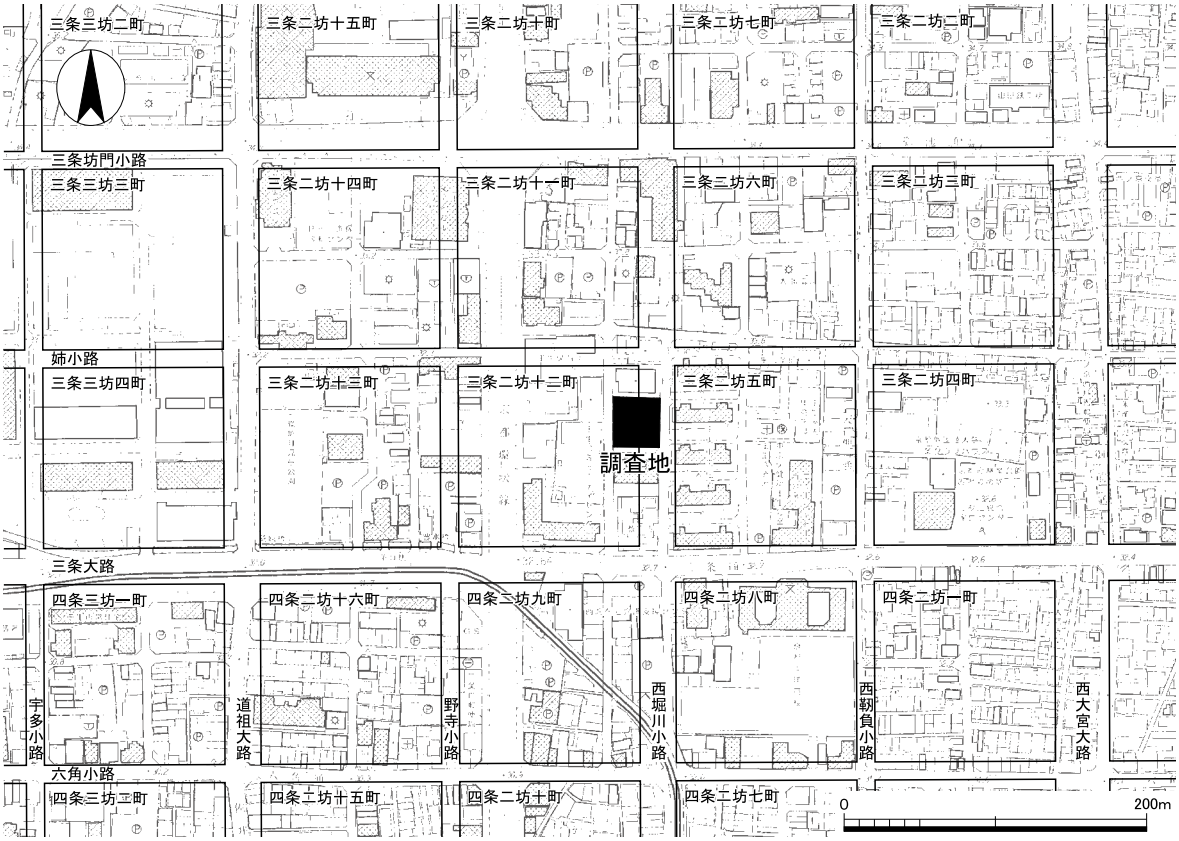


図１　調査地位置図（１：5,000）

（２）調査の経過（図２～８）

調査区は、文化財保護課の指導の下、新建公園内に４箇所（１区：189.25㎡、２区：192.29㎡、３区：56.27㎡、４区：38.64㎡）に設定し、調査面積は476.45㎡となった。

調査区内では、１区・４区が平安京右京三条二坊十二町跡・御土居堀跡及び土塁跡、２区・３区が西堀川小路跡・御土居の土塁跡にあたる。

発掘調査は、2023年４月17日から準備工を、４月19日から１区の重機掘削を開始した。地表下約0.7ｍ（標高約33.4ｍ）で安土桃山時代の御土居の土塁と堀を検出した。堀の深さは約2.7ｍである。また、地表下約1.6ｍ（標高31.8ｍ）で平安時代前期の柱穴・土坑を検出した。１区の調査終了後、４区の重機掘削を開始し、御土居の土塁と堀を検出した。以後、２区・３区の順で調査を進めた。２区では、御土居の土塁の下層で平安時代前期の西堀川小路の西側溝・西側路面・西堀川、十二町内の水溜・柱穴・溝・土坑などを検出した。さらに平安京遷都前と推測される溝を検出した。３区では、御土居の土塁の下層で平安時代前期の西堀川小路の西側溝・西側路面・西堀川を検出した。調査終了後埋め戻し、2023年８月１日にすべての調査を終了した。

遺構の記録は、随時実測図を作成し、オルソ測量・写真撮影などの記録作業を行った。調査中は適時、文化財保護課・すまいまちづくり課との協議を行い、文化財保護課と検証委員の龍谷大学國下多美樹教授の検査及び指導を受けた。

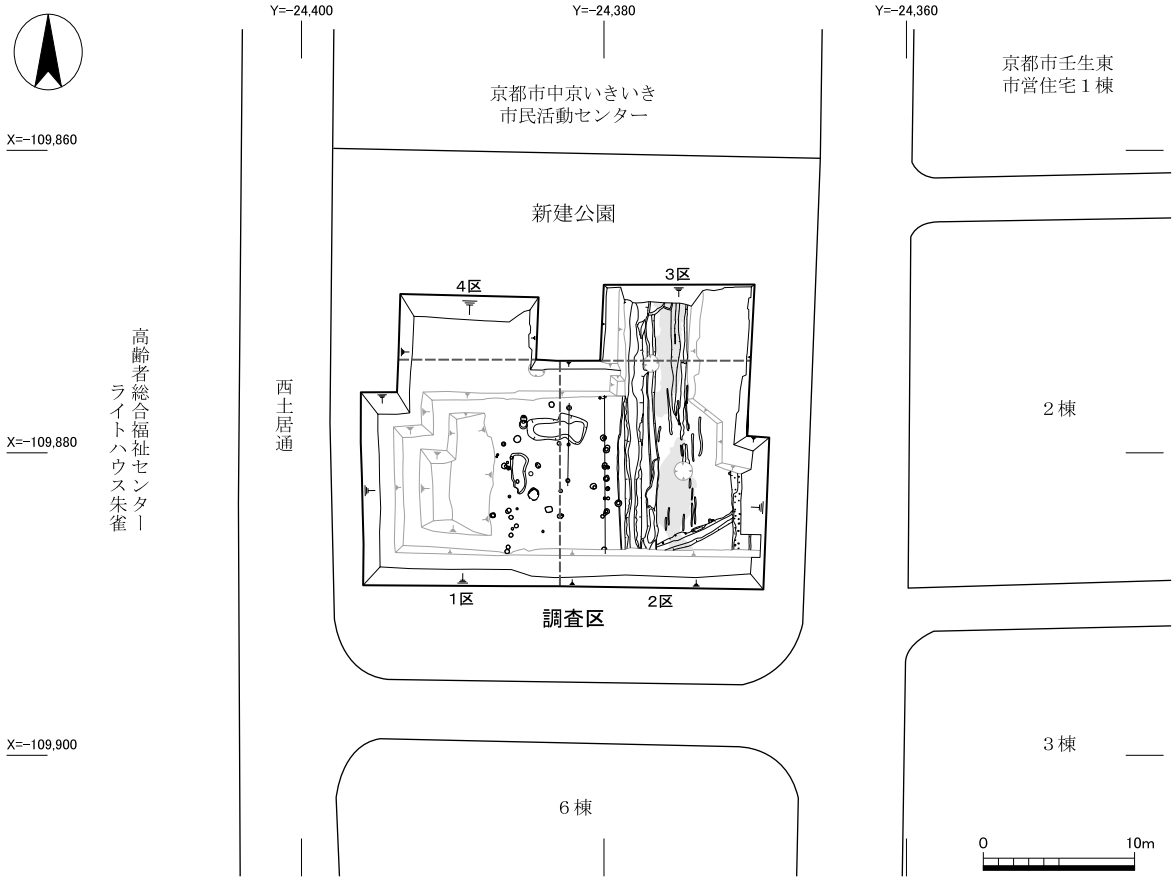


図２　調査区配置図（１：500）

図３　調査前全景（東から）

図４　１区重機掘削状況（南から）

図５　３区作業状況（北西から）

図６　４区作業状況（北西から）

図７　現地遺跡説明会（北から）

図８　中学生チャレンジ体験（北西から）

５月27日に地元の小学生や周辺住民を対象とした現地遺跡説明会を開催し、５月31日には中学生の生き方探求・チャレンジ体験を受け入れた。

また、調査・整理作業の間、以下の方々にご指導・ご助言などをいただいた。記して謝意を表します。

西山良平（京都大学）、辻　浩和・水口幹記（立命館大学）、丸山真史（東海大学）

（順不同・敬称略）

２．位置と環境

（１）位置と環境

調査地は、平安京右京三条二坊十二町跡の北東部の東一行、北二・三門及び西堀川小路跡にあたり、さらに御土居跡にあたる。この坊には、承和３年（836）に明法博士讃岐朝臣永直らが、貞観15年（873）には陰陽充弓削連是雄が、それぞれ戸籍貫付されているが、十二町の居住者及び土地利用は確認できない。西堀川小路は、平安京を南北に貫く条坊街路であり、その中央に人工河川を伴う。左京の堀川に対して西堀川と呼ばれた。また、弥生時代から古墳時代の遺構・遺物を検出した西ノ京遺跡の南東部に位置している。

御土居は、豊臣秀吉によって天正19年（1591）に築かれた京を囲む土塁と堀である。調査地周辺の地形は、東が一段高くなっており、西側が低くなる。これは、南北方向に築かれた御土居の痕跡であり、東側は土塁、西側の低い部分は堀の名残である。調査地西側には、南北通りの「西土居通」が地名として残る。

近世以降になると当地周辺は、古絵図に西京村域内の耕作地として図示されている[1)]。

（２）既往の調査

周辺の調査　調査地周辺では数多くの発掘調査が実施されており、調査成果が報告されている（図９・表１）。調査地近辺での調査を概観する。本文中の調査番号は、図９・表１と一致する。

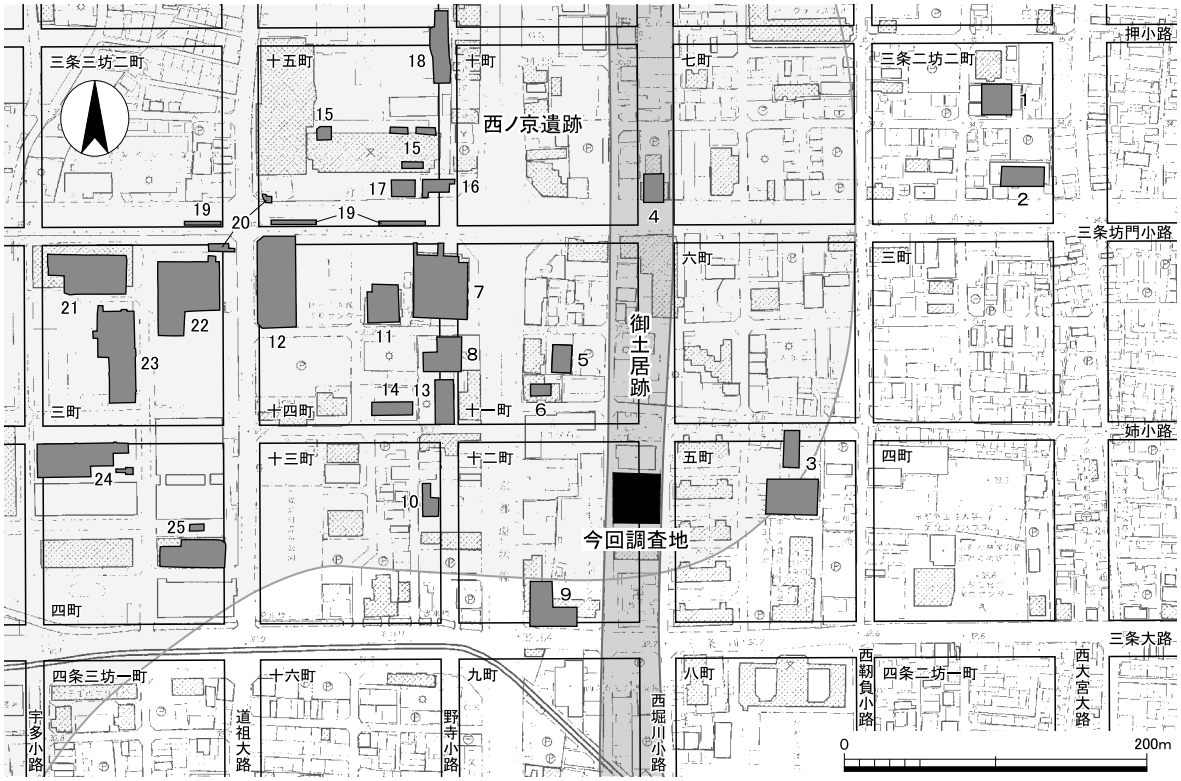


図９　周辺調査位置図（１：5,000）

表１　周辺調査一覧表

No.	調査地区	所在地 (中京区)	調査期間	調査概要	文　　献
1	三条二坊二町	西ノ京銅駝町68	2003.08.01 ～2003.09.10	平安時代の建物1棟、泉、溝、土坑、ピットなどを検出。	近藤知子「平安京右京三条二坊二町」『京都市内遺跡発掘調査概報　平成15年度』 京都市文化市民局　2004年
2	三条二坊二町	西ノ京銅駝町76	1981.10.21 ～1981.11.20	平安時代の建物3棟、井戸1基、溝2条、柵1条などを検出。	平尾政幸「平安京右京三条二坊」『平安京跡発掘調査概報　昭和56年度』 京都市文化観光局　1982年
3	三条二坊五町、姉小路	西ノ京北小路町4他	1985.04.15 ～1986.08.14	姉小路南側溝、平安時代の建物7棟、柵4条、井戸1基、溝5条を検出。	平尾政幸ほか「平安京右京三条二坊」『昭和60年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1988年
4	三条二坊十町、西堀川小路	西ノ京原町64	1982.06.17 ～1982.07.10	西堀川小路の西堀川、路面2面、西側溝などを検出。	平尾政幸ほか「右京三条二坊」『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1984年
5	三条二坊十一町	西ノ京下合町	2006.10.11 ～2006.12.15	平安時代前期の掘立柱建物の一部、平安時代中期の宅地を区画したとみられる溝、鎌倉時代の耕作溝を検出。	モンペティ恭代『平安京右京三条二坊十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-24　（公財）京都市埋蔵文化財研究所　2021年
6	三条二坊十一町	西ノ京下合町41	1993.11.15 ～1993.12.10	-0.4mで中世以降の遺物を含む氾濫堆積層、その下層で平安時代の井戸、土坑、溝、柱穴などを検出。	報告書などは未刊。『平安京右京三条二坊十一町跡発掘調査終了報告書』より　古代文化調査会　1994年
7	三条二坊十一町・十四町、野寺小路	西ノ京下合町11	1989.11.30 ～1990.02.23	三条坊門小路南側溝、野寺小路東西両側溝、柵2条、野寺小路川を検出。	木下保明「平安京右京三条二坊2」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1994年
8	三条二坊十一町・十四町、野寺小路	西ノ京下合町20・21・22	2006.02.10 ～2006.04.01	平安時代中期～室町時代初め頃の野寺小路に重なる川跡、水利施設などを検出。	布川豊治『平安京右京三条二坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-1　（財）京都市埋蔵文化財研究所　2006年
9	三条二坊十二町	西ノ京新建町5-14～30	1978.11.10 ～1978.12.28	建物3棟、平安時代前期の井戸1基、平安時代以前？の溝などを検出。	平尾政幸「平安京右京三条二坊」『平安京跡発掘調査概要　京都市埋蔵文化財研究所概要集1978』 1979年
10	三条二坊十三町	西ノ京三条坊町14-1他	2005.02.22 ～2005.03.08	鎌倉時代から室町時代の土取跡、柱穴、江戸時代の耕作跡などを検出。	山口　真『平安京右京三条二坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-19　（財）京都市埋蔵文化財研究所　2005年
11	三条二坊十四町	西ノ京下合町11	2002.10.02 ～2002.11.09	平安時代前期の建物3棟と、区画施設などの柵または塀などを検出。宅地割りは1/8町が想定される。	報告書などは未刊。『平安京右京三条二坊十四町発掘調査終了報告書』より　（財）古代学協会2002年
12	三条二坊十四町	西ノ京下合町地内	1998.03.19 ～1998.06.26	三条坊門小路南側溝、平安時代の建物8棟、門2棟、柵8条、井戸3基と道祖大路川などを検出。	南　孝雄「平安京右京三条二坊」『平成10年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2000年
13	三条二坊十四町	西ノ京下合町23・24	2022.07.06 ～2022.06.27	野寺小路側溝、野寺川などを検出。	奥井智子「平安京右京三条二坊十四町跡、西ノ京遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　令和4年度』 京都市文化市民局　2023年
14	三条二坊十四町	西ノ京下合町19他	2021.01.07 ～2021.02.05	平安時代前半の柱穴列と室町時代の土取土坑を検出。	岡田麻衣子『平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-9　（公財）京都市埋蔵文化財研究所　2021年
15	三条二坊十五町	西ノ京東中合町1（西京商業高等学校）	2001.01.29 ～2001.03.14	平安時代の池、土坑、柵などを検出。	網　伸也ほか『平安京右京三条二坊十五・十六町―「齋宮」の邸宅跡―』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊　2002年
16	三条二坊十五町、野寺小路	西ノ京東中合町	2003.11.04 ～2003.12.26	平安時代の建物、溝、柵、野寺小路川などを検出。	津々池惣一『平安京右京三条二坊十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-8　（財）京都市埋蔵文化財研究所　2004年
17	三条二坊十五町	西ノ京東中合町1（西京商業高等学校）	1987.05.18 ～1987.06.12	平安時代の溝4条、柱穴などを検出。他に中世の井戸がある。	本　弥八郎「平安京右京三条二坊」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1991年
18	三条二坊十五町・十六町、押小路、野寺小路	西ノ京東中合町1（西京商業高等学校）	1981.07.03 ～1981.07.31	平安時代中期の押小路両側溝、建物1棟、井戸1基、平安時代後期の野寺小路川などを検出。	辻　純一「右京三条二坊(2)」『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983年

№.	調査地区	所在地 (中京区)	調査期間	調査概要	文　　献
19	三条二坊十五町、三坊二町	西ノ京東中合町	2001.10.22 ～2001.11.29	平安時代前期の土坑、井戸、柱穴、室町時代の溝を検出。	百瀬正恒ほか『平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
20	三条二坊十五町、三坊三町	西ノ京東中合町	2005.08.08 ～2005.09.02	平安時代の南北溝、川跡、道祖大路東築地内溝と西側溝、三条坊門小路南側溝など検出。	卜田健司『平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2005年
21	三条三坊三町	西ノ京桑原町	1980.04.10 ～1980.07.15	古墳時代前期の溝、平安時代前期の建物、柵、井戸、溝を検出。	平尾政幸ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年
22	三条三坊三町	西ノ京桑原町1	2012.11.19 ～2013.02.22	奈良時代以前の溝、平安時代前期～中期の建物、井戸、道祖大路西側溝を検出。	南　孝雄『平安京右京三条三坊三町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-23 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2013年
23	三条三坊三町	西ノ京桑原町1	2009.04.06 ～2009.06.23	古墳時代前半の溝、平安時代前期の井戸、柵、小径、土坑を検出。	山本雅和ほか『平安京右京三条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-4 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
24	三条三坊四町	西ノ京桑原町1	2012.03.05 ～2012.06.23	古墳時代中期の溝、平安時代前期の建物、宇多小路東築地と内溝、姉小路南築地溝を検出。	田中利津子ほか『平安京右京三条三坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-4 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2012年
25	三条三坊四町	西ノ京桑原町1	1981.08.06 ～1981.10.05	平安時代前期の道祖大路西築地内溝、橋、建物、土坑を検出。	平尾政幸ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年

三条二坊では、五町と姉小路の調査３で、姉小路南側溝、平安時代の建物７棟・柵４条・井戸１基・溝５条を検出している。十町東側の西堀川小路の調査４では、西堀川小路の西堀川・路面２面・西側溝などを検出している。十一町の調査５では、平安時代前期の掘立柱建物の一部と平安時代中期の宅地を区画したとみられる溝、鎌倉時代の耕作溝などを検出している。調査６では、中世以降の遺物を含む氾濫堆積層、その下層で平安時代の井戸・土坑・溝・柱穴などを検出している。十二町の調査９では、建物３棟、平安時代前期の井戸１基、平安時代以前の溝などを検出している。十三町の調査10では、鎌倉時代から室町時代の土取跡・柱穴、江戸時代の耕作跡などを検出している。

三条三坊では、三町の調査23で、古墳時代前期の溝、平安時代前期の井戸・柵・小径・土坑を検出している。

西堀川小路跡の調査　西堀川小路跡に対する調査は、多く行われている。上記の調査４を除く主要な既往調査は、以下のとおりである。

右京二条二坊十一町跡の調査では、平安時代前期の西側溝・西路面・西堀川・東路面などを検出している[2)]。右京四条二坊十一町跡の調査では、平安時代前期から中期の西側溝・西路面・西堀川・西築地・内溝などを検出している[3)]。右京五条二坊五町跡の調査では、平安時代の西堀川・東路面・東側溝・築地・内溝などを検出している[4)]。右京六条二坊六・十一町跡の調査では、平安時代の西堀川・東路面・東側溝・東築地などを検出している[5)]。

これら既往調査の成果から、本調査区においても、平安京遷都前の遺構や、平安時代の宅地関連遺構・西堀川小路関連遺構、そして安土桃山時代の御土居関連遺構などの検出が予想された。

註

1）　大塚　隆編『慶長・昭和　京都地図集成』　柏書房　1994年

2）　高橋　潔・モンペティ恭代『平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012－25　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2014年

3）　布川豊治『平安京右京四条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015－1　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年

4）　堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告　昭和55年度』　京都市埋蔵文化財調査センター　1981年

5）　小檜山一良ほか『平安京右京六条二坊六・十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007－3　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2007年

参考文献

『平安京提要』　角川書店　1994年

『京都の地名』　平凡社　1987年

３．遺　　構

（１）基本層序（図10）

調査区の基本層序は、上から順に現代盛土・攪乱、御土居の堀埋土・土塁構築土、洪水層、耕作関連土及び畦状遺構構築土、平安時代の路面構築土、地山となる。御土居の堀は調査区西半の１・４区、御土居の土塁は調査区東半の１～３区で確認した。洪水層は調査区南側の２区では確認できたが、調査区北側から西側の１・３・４区では認められなかった。また、調査区東端部では西堀川（溝47）を確認している。以下、御土居の堀にあたる１区北壁西部と、御土居の土塁にあたる２区北壁の層序について概略する。

１区北壁西部の層序は、上から順に、厚さ約1.2ｍの現代盛土、厚さ約0.6ｍの黒褐色砂泥を主体とする近代以降の堀上層（１層）、厚さ約0.3ｍの黒褐色細砂を主体とする堀中層（２層）、厚さ約1.1ｍの黄灰色粘土質シルトを主体とする堀下層（３層）、厚さ約0.6ｍの黒褐色粘土質シルトを主体とする堀最下層（４層）、オリーブ褐色砂礫の地山（14層）となる。

２区北壁西部の層序は、上から順に、厚さ約0.7ｍの現代盛土、厚さ約0.6ｍの砂泥層と砂礫層からなる土塁構築土（５層）、厚さ約0.8ｍの礫・炭・土師器片混じり黒褐色シルトを主体とする耕作関連土（８層）、黄灰色シルトの地山（13層）となる。

２区北壁中央部の層序は、上から順に、厚さ約1.3ｍの現代盛土及び攪乱、厚さ約0.5ｍの褐色砂泥層と砂礫層からなる畔状遺構構築土（10層）、厚さ約0.2ｍの細砂～シルト層と砂礫層からなる路

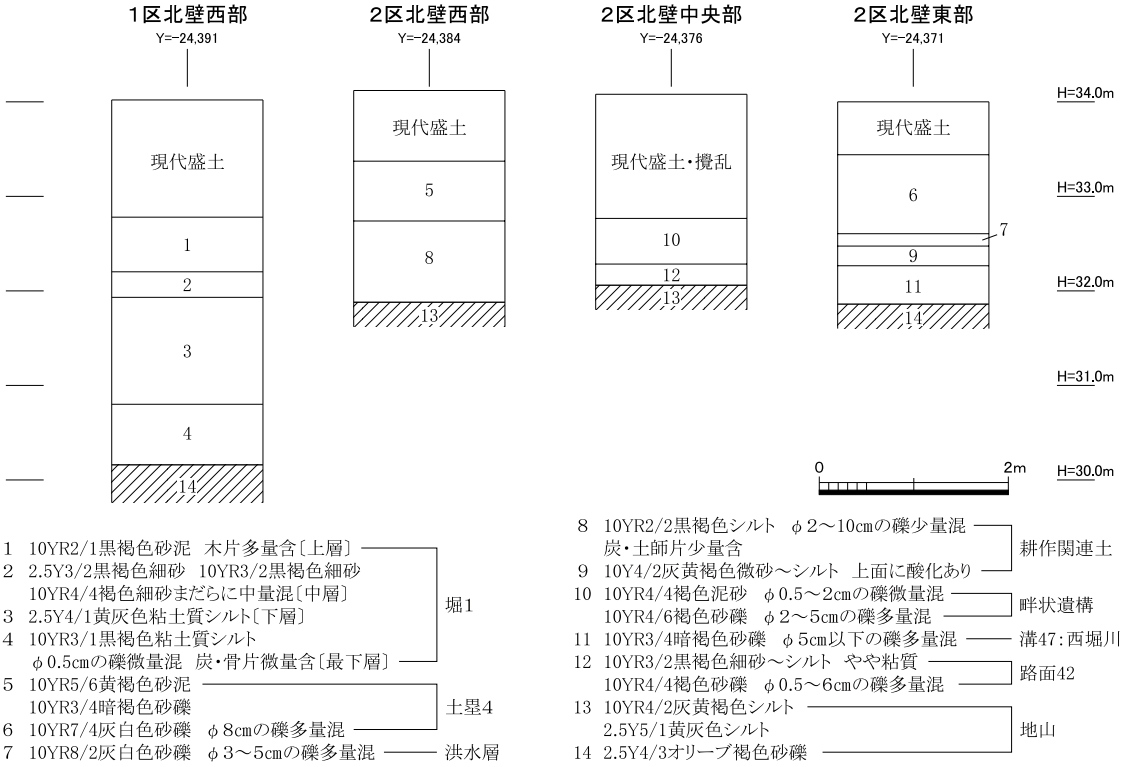


図10　基本層序柱状図（１：80）

面構築土（12層）、灰黄褐色シルトの地山（13層）となる。

２区北壁東部の層序は、上から順に、厚さ約0.5ｍの現代盛土、厚さ約0.8ｍの砂礫層を主体とする土塁構築土（６層）、厚さ約0.15ｍの灰白色砂礫からなる洪水層（７層）、厚さ約0.2ｍの灰黄褐色微砂～シルトの耕作関連土（９層）、厚さ約0.4ｍの暗褐色砂礫を主体とする西堀川埋土（11層）、オリーブ褐色砂礫の地山（14層）となる。

調査では、御土居の検出面を第１面、路面と地山上面を第２面として遺構検出を行った。

（２）遺構の概要（表２）

検出した遺構は、平安京遷都以前の溝・杭跡、平安時代前・中期の柱列・溝・路面・水溜・土坑、古代から中世の溝・畦状遺構・耕作関連土、安土桃山時代以降の堀・土塁・杭列などがある。以下、古い時代の遺構から概説する。

（３）平安京遷都以前の遺構（図版１・13・14）

溝65（図11、図版14）　２区で検出した北東から南西方向の溝である。溝の幅は0.7ｍ、深さ約0.4ｍを測る。主軸方位は北に対して東へ約65.8°傾く。溝底の標高は、北東端・中央部・南西端いずれも31.7ｍである。溝の北東と南西は調査区外に続く。埋土はオリーブ黒色～黒褐色シルトもしくは粘土を主体とする。北肩部で杭跡を４基確認した。溝の護岸に伴うものとみられる。遺構の時期は遺物が出土しなかったため不明であるが、平安時代の路面下層で検出したこと、主軸方位が正方位を指向しないことから、平安京遷都以前と推定した。

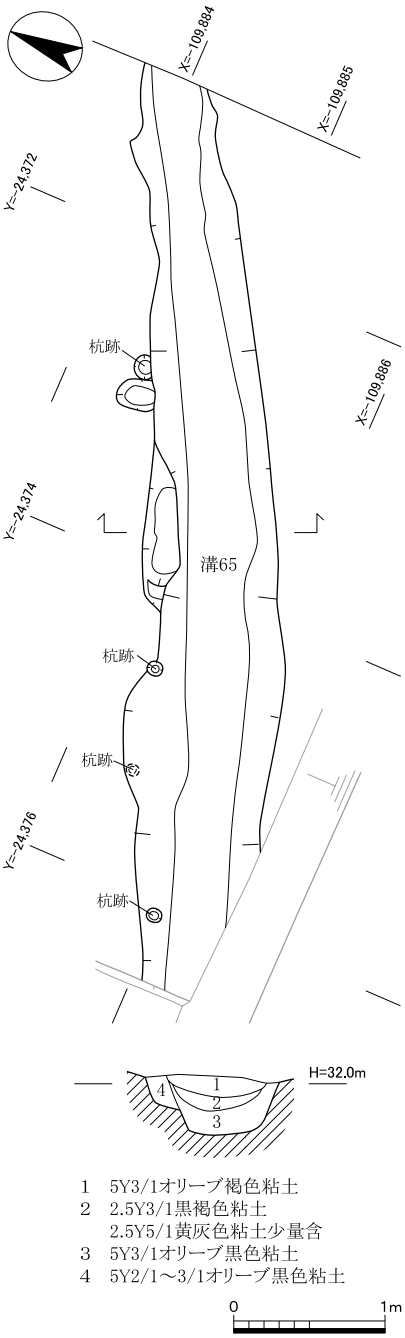


図11　溝65実測図（１：50）

表２　遺構概要表

時　　代	遺　　構	備　　考
平安京遷都以前	溝65	
平安時代前・中期	溝29・47・73、路面27・42、轍72・74・75・78・79、柱列30・51、水溜55、土坑17、柱穴群	溝29・73は西堀川小路西側溝、溝47は西堀川
古代～中世	溝28、畦状遺構、耕作関連土	
安土桃山時代以降	堀１、土塁４、杭列	堀１・土塁４は御土居

（４）平安時代前・中期の遺構（図版１・13・14）

溝47（図12、図版３～６・８～11・15）　２区東端部で検出した南北方向の溝で、西堀川の西肩部にあたる。幅1.9ｍ以上、深さ0.6ｍ以上、南北5.3ｍ以上を測る。北側と南側、東側は調査区外に続く。埋土は暗褐色砂礫を主体とする。土師器・須恵器・灰釉陶器・黒色土器が出土した。

溝の西肩部で南北方向の杭列を２条検出した。主軸方位はほぼ正方位であり、北に対して西へ約0.3°傾く。杭はヒノキの芯持ち丸太材で、先端を角錐状に加工している。杭の直径は６～10㎝、長さは約90㎝である。西側の杭は２本を垂直に打ち込み、東側の杭は上部を西側に傾けて打ち込んでいる。

溝29・73（図版３～５・８～11・15～17）　２区中央部と３区西側で検出した南北方向の溝で、西堀川小路の西側溝である。溝の北側と南側は調査区外に続く。溝73から溝29へと作り変えられている。

溝73は、幅0.4～0.7ｍ、深さ0.3～0.4ｍを測る。主軸方位はほぼ正方位であり、北に対して西へ約1.6°傾く。溝底の標高は31.8～32.0ｍである。埋土は黒褐色シルトを主体とする。

溝29は、幅1.1～1.3ｍ、深さ0.3～0.5ｍを測る。主軸方位はほぼ正方位であり、北に対して東へ約0.4°傾く。溝底の標高は北端が31.7ｍ、南端が31.5ｍである。埋土は褐色砂礫を主体とする。埋土から土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。

路面27・42（図13、図版３～５・８～11・15・16）　２区東側と３区中央部で検出した南北方向の路面である。西堀川小路の西側路面である。層厚0.1ｍ程度の粗砂～シルト層と直径１～８㎝の礫層によって構築されており、上面は堅緻な礫敷が認められる。北側と南側は調査区外に続く。

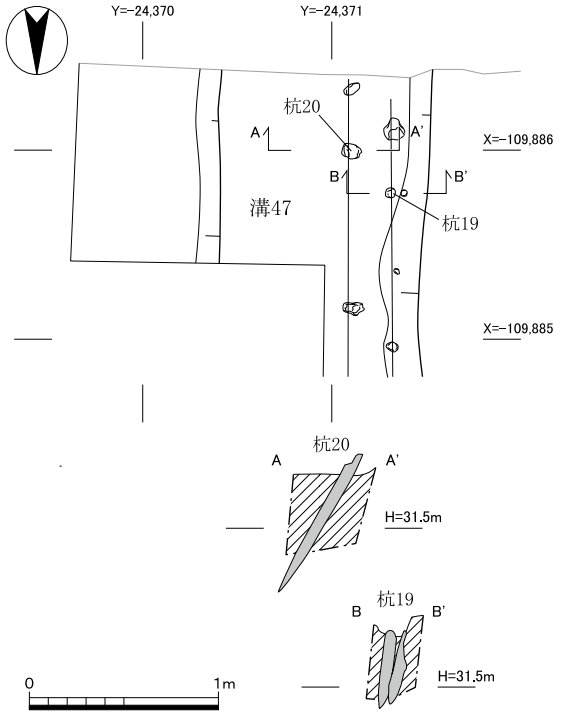


図12　溝47 杭19・20実測図（１：40）

路面構築土の層序から、路面27・43は少なくとも２回（古・新）の舗装を確認した。なお、溝73が機能した段階の路面構築土は確認できなかった。

各路面については、溝73を西側溝とした段階（路面１段階）、溝29を西側溝とした段階（路面２段階）、溝29が機能を喪失した段階（路面３段階）に区分できる。以下、各段階について述べる。

路面１段階：路面構築土は未確認である。幅約4.1～4.5ｍを測る。路面の標高は、北端では東側が約32.25ｍで西側が約32.0ｍ、南端では東側が約32.2ｍで西側が約32.0ｍである。

路面２段階：路面27（古）・42（古）が対応する。幅約5.0～5.5ｍを測る。路面の標高は、北端では東側が約32.25ｍで、路面42（古）の西側が

約32.15ｍ、南端では東側が約32.25ｍで西側が約32.05ｍである。

路面３段階：路面27（新）・42（新）が対応する。幅約6.6～6.8ｍを測る。路面の標高は、北端では東側が約32.5ｍで西側が約32.4ｍ、南端では東側が約32.3ｍで西側が約32.15ｍである。

轍72・74・75・78・79（図版11・16）　路面27・42（古）の直下で検出した南北方向の轍である。幅0.1～0.3ｍ、深さ約0.05ｍを測る。埋土は直径１～４㎝の礫を含む黒褐色シルトを主体とする。

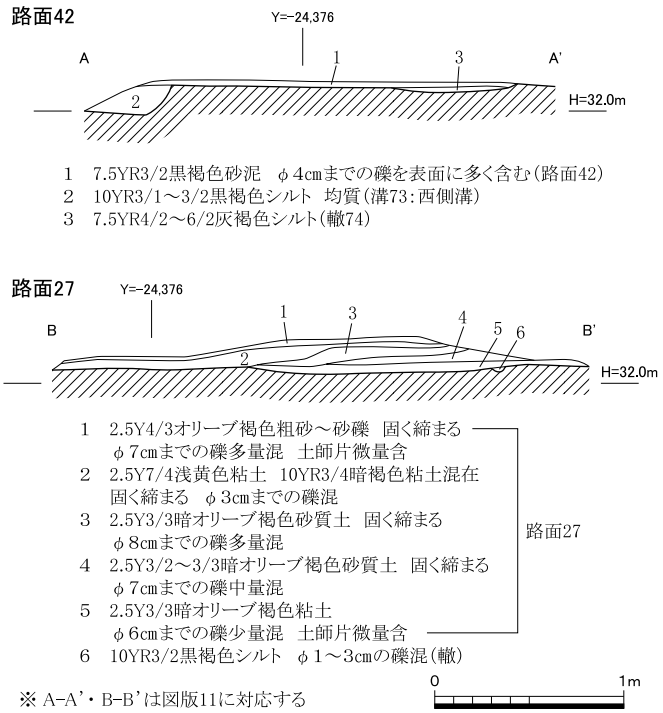


図13　路面27・42断面図（１：40）

柱列30（図版11・12・17）　２区西寄りの西堀川小路の西築地推定位置で検出した南北方向の柱列である。柱穴は９基を確認した。柱間は0.7ｍを主とするが、一部2.1ｍもある。主軸方位はほぼ正方位であり、北に対して西へ約0.3°傾く。遺構の北側と南側は調査区外に続く。柱穴は直径0.2～0.5ｍ、深さ0.1～0.4ｍを測る。埋土は黒褐色粘土を主体とする。柱穴の並びが東西にずれるものがあることから、ほぼ同じ位置での作り変えを想定できる。

柱列51（図版12）　２区西端で検出した南北方向の柱列である。柱穴は３基を確認した。柱間は北から2.1ｍ、2.4ｍである。主軸方位はほぼ正方位であり、北に対して東へ約１°傾く。遺構の北側は調査区外に続く可能性がある。柱穴は直径0.2～0.3ｍ、深さ0.1～0.2ｍである。埋土は黒褐色粘土を主体とする。

水溜55（図14）　２区東端で検出した円形の水溜である。掘形の直径約0.7ｍ、深さ約0.7ｍ以上を測る。湧水が激しく底部は確認できなかった。掘形内に直径約0.55ｍの曲物を据え、外側にスギの縦板を差し込んで曲物を固定している。曲物内の埋土は黒褐色粘土を主体とする。土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。

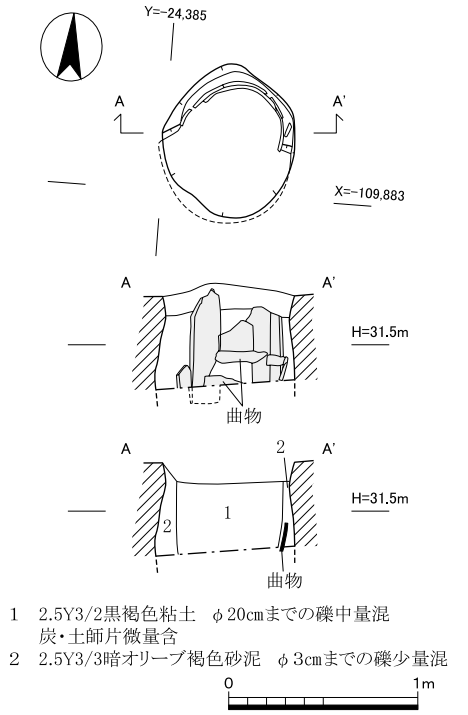


図14　水溜55実測図（１：40）

土坑17　２区北西部で検出した不定形の土坑である。東西約4.1ｍ、南北約1.8ｍ、深さ約0.3ｍである。埋土は黒褐色粘土を主体とする。土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。

柱穴群（図版17）　１区東端から２区西側では約30基の柱穴を検出した。柱穴は直径0.2～0.5ｍ、深さ約0.1～0.2ｍである。柱当たりが確認できるものも数基あるが、建物は復元できなかった。

（５）古代から中世の遺構（図版１・13・14）

溝28　２区中央部で検出した南北方向の溝である。全長６ｍ以上、幅0.5～1.1ｍ、深さ0.3～0.4ｍである。主軸方位は北に対して東へ約5.8°傾く。溝の南側は調査区外に続く。埋土は褐色砂礫を主体とする。

畦状遺構　２区東部と３区中央部で確認した南北方向の畔状の構築物である。幅4.0～5.7ｍ、高さ0.3～0.4ｍを測る。路面27（新）・42（新）の直上に、礫混じりの砂層とシルト層を交互に積み上げて構築している。

耕作関連土　畦状遺構を挟んだ東部・西部で確認した。１区西側で厚さ0.5～0.8ｍ、２区東側で厚さ0.1～0.3ｍを測る。小礫、動物遺存体などを含むシルト層を主体とする。土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。

（６）安土桃山時代以降の遺構（図版２・18・19）

堀１（図版３～５・19）　１区西半部と４区で検出した御土居の堀である。東西幅9.5ｍ以上、深さ約2.7ｍ、南北17ｍ以上を測る。北側と南側、西側は調査区外に続く。掘削深度が２ｍを超えるため、作業の安全面を考慮して一部完掘はしていない。

埋土は大きく４層に分けることができる。黒褐色砂泥を主体とした近現代の上層、黒褐色細砂を主体とした中層、黄灰色粘土質シルトを主体とした下層、黒褐色粘土質シルトを主体とした最下層である。上層から土師器・焼締陶器・施釉陶器・染付磁器が出土した。最下層から平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土したが、いずれも混入品である。

土塁４（図版３～９・20）　１～４区で検出した御土居の土塁である。東西幅15ｍ以上、高さ0.8～1.2ｍ以上、南北19ｍ以上を測る。北側と南側、東側は調査区外に続く。

土塁構築土は、大きくシルト質・砂質・砂混じりの礫質の土層に分類できる。全体的な傾向として、調査区の西側ではシルト質・砂質の構築土が主体的であり、東側は砂質の構築土を主体とする。構築の過程で、シルト質・砂質もしくは砂質・礫質の構築土を交互に積み上げつつ、高さ約0.8ｍの土手状の高まりを形成している。

杭列　堀１の東肩口で南北方向の杭列を検出した。杭は直径10～15㎝のマツ・ヒノキの丸材を主としており、ホゾ穴のある転用材も確認できた。堆積状況から、近現代の堀１上層から堀１中層に対応する時期の構築物と考えられる。

４．遺　　物

（１）遺物の概要（表３）

遺物は整理コンテナに20箱出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、瓦類、木製品、銭貨・金属製品、動植物遺存体などがある。遺物の時期は、平安時代から江戸時代以降のものがあり、平安時代のものが多くを占める。

土器類には、平安時代の溝・土坑・水溜・柱穴や古代から中世の耕作関連土から出土した土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器・輸入陶磁器がある。また、御土居の堀の最下層からは混入品と考えられる平安時代の土器類が出土したほか、堀の上層から江戸時代以降の土師器・施釉陶器・染付磁器が出土した。

瓦類には、耕作関連土や土塁構築土から出土した軒丸瓦・丸瓦・平瓦がある。

木製品には、平安時代の水溜から出土した曲物、西堀川から出土した杭、御土居の堀から出土した杭がある。

金属製品には、耕作関連土から出土した延喜通寶や近世の層から出土した寛永通寶などの銭貨、土坑などから出土した鉄釘がある。

動植物遺存体には、耕作関連土や御土居の堀から出土した骨、御土居の堀から出土した貝、平安時代の土坑から出土した種実がある。

以下、遺物の種類ごとに概要を述べる。土器類の詳細は付表１にまとめた。出土土器の時期は、平尾政幸氏の編年に拠る[1)]。

（２）土器類（図15・16、付表１）

溝29出土土器（図15　１～19）　土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。土師器は１Ｂ～Ｃ段階に属する。

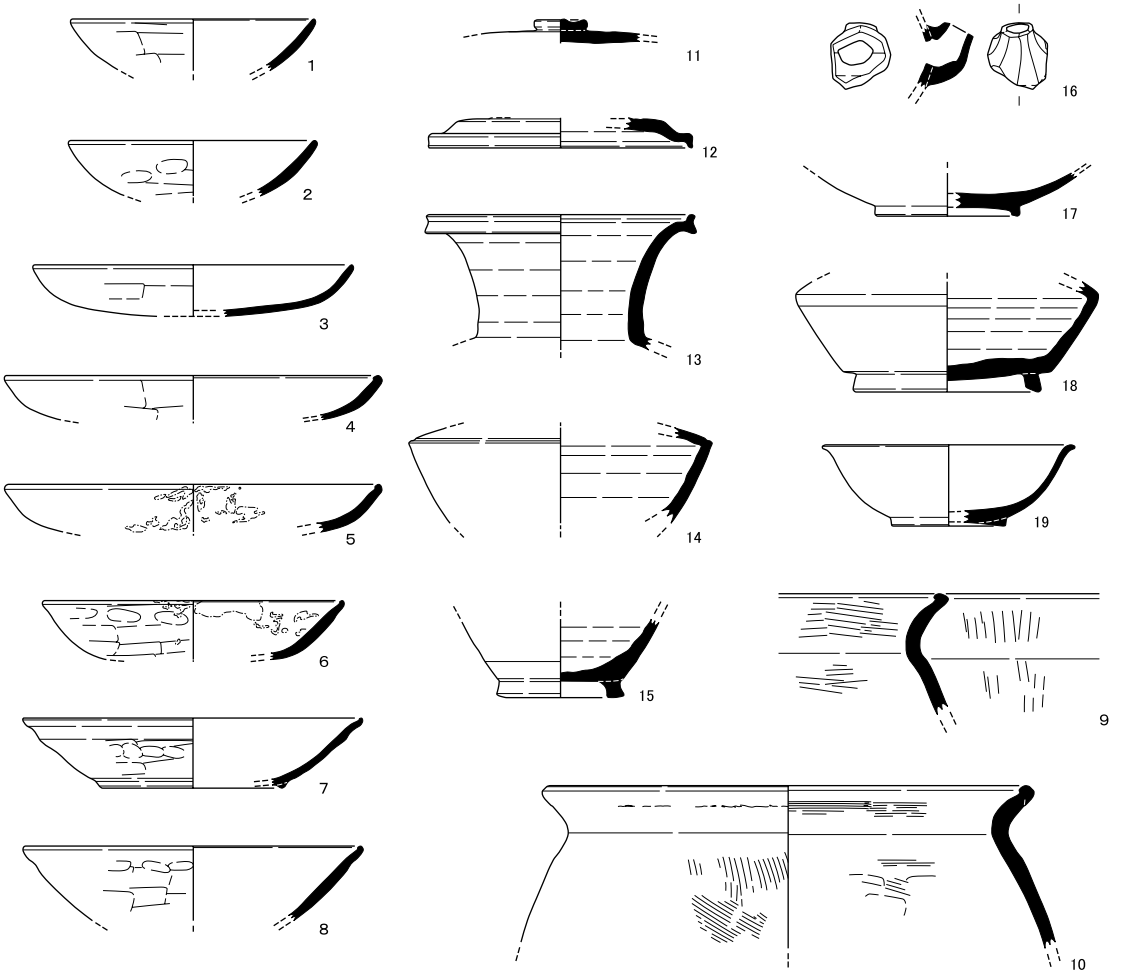
１～10は土師器である。１・２は椀Ａｃである。体部は内湾して開く。口縁端部は丸く収める。

表３　遺物概要表

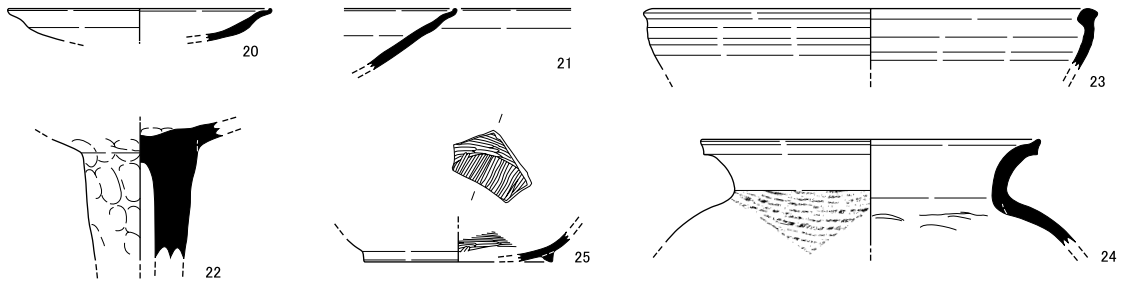
時　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク点数	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、銭貨、木製品、動植物遺存体		土師器18点、須恵器９点、黒色土器２点、灰釉陶器６点、緑釉陶器７点、輸入陶磁器１点、軒丸瓦１点		
安土桃山時代以降	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類、銭貨、金属製品、木製品、動植物遺存体		土師器１点、染付磁器２点		
合　計		22箱	47点（２箱）	０箱	20箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、Ａランクの遺物を抽出したため、出土時より２箱多くなっている。

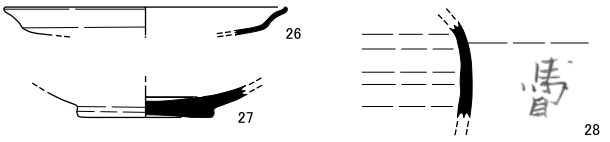
溝29



溝47



土坑17



水溜55

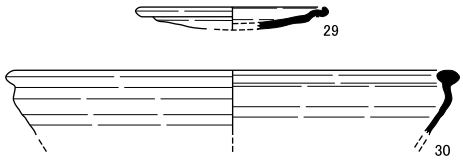


図15　出土土器実測図１（１：４）

外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。３～５は皿Ａcである。広く平らな底部から体部が内湾して開く。３は口縁端部を丸く収め、４・５の口縁端部は肥厚する。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。５の内外面には煤が多く付着する。６～８は杯Ａcである。体部はやや直線的に開く。口縁端部は内側に肥厚する。７の底部には断面三角形の高台を貼り付ける。外面はヘラケズリ、口縁部付近はオサエ、内面はナデを施す。６の内外面には煤が付着する。９・10は甕である。口縁部は外反し、端部は肥厚する。口縁部外面と端部内面はヨコナデ、内面はヨコ方向ハケメ、体部外面はタテ方向やナナメ方向の粗いハケメを施す。

11～15は須恵器である。11・12は蓋である。11の天井部は回転ヘラケズリ、内面はナデで調整する。天井中央部には扁平なつまみを貼り付ける。12は天井中央部を欠く。天井部は回転ヘラケズリ、口縁部から内面はナデで調整する。13～15は壷である。13は頸部から口縁部にかけて強く外反し、口縁部は外側に面をもつ。内外面ともにロクロナデを施す。14は平瓶の肩部である。体部から天井部にかけて強く屈曲する。内外面ともにナデで調整する。胎土は灰色でよく焼き締り、天井部には自然釉が付着する。15は底部である。貼り付けの高台が付く。体部外面下方は回転ヘラケズリ、内外面にはロクロナデを施す。

16～18は灰釉陶器である。16は浄瓶注口部の小片である。外面はヘラケズリを施したのち施釉する。17は皿の底部である。底部から体部外面は回転ヘラケズリを施す。内面は施釉する。18は平瓶である。平坦な底部に高台を貼り付ける。直線的に開く体部から天井部にかけて強く屈曲する。体部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデで調整する。

19は緑釉陶器椀である。体部は内湾して開き、口縁部は外反する。貼り付けの蛇の目高台が付く。幡枝産。

溝47出土土器（図15　20～25）　土師器・須恵器・灰釉陶器・黒色土器が出土した。２Ｂ～Ｃ段階に属する土器群である。

20～22は土師器である。20は皿Ａである。体部は外湾気味に開き、口縁端部は外反する。内外面ともオサエの後、ナデで調整する。器壁の薄い皿である。21は杯ALの口縁部である。体部は直線的に開き、口縁端部は小さく摘み上げる。体部外面はオサエ、口縁部付近はヨコナデ、内面はナデを施す。22は高杯脚部の上部である。心棒作り、脚部は断面円形でオサエとナデを施す。

23・24は須恵器である。23は鉢の口縁部である。口縁部先端を玉縁状に収める。内外面ともにロクロナデを施す。口径は23.0㎝。24は甕の口縁部である。口縁部は強く外反し外側に平坦面をもつ。外面は細かいヨコ方向のタタキ、内面はあて具痕をナデで調整する。頸部内面には粘土紐痕がみられる。口径は17.9㎝。

25は黒色土器椀の高台部である。内面を黒色化し、ミガキ暗文を施す。外面はナデを施す。底部には断面三角形の高台を貼り付ける。

土坑17出土土器（図15　26～28）　土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。２Ｂ～Ｃ段階に属する土器群である。

26は土師器皿Ａである。体部は緩やかに外反し口縁部で上方に立ち上がり、端部は丸く収める。

底部外面はオサエ、口縁部の内外と内面はヨコナデを施す。薄い器壁の皿である。

27は緑釉陶器皿の底部である。体部外面は回転ヘラケズリを施す。削り出しの平高台である。内面底部に沈線がある。底部径6.8㎝。

28は須恵器壷体部である。内外面ともにロクロナデを施す。体部外面に「馬□」の墨書がある。胎土は灰色を呈し、焼成は良好である。

水溜55出土土器（図15　29・30）　土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器が出土した。３Ｃ段階に属する土器である。

29は土師器皿Ａである。口縁部形態が口縁部のヨコ方向のナデと、摘まみ上げたように収める小突起状の口縁端部のいわゆる「ての字状口縁」を呈する。内外面ともオサエのちナデで調整する。

30は須恵器鉢の口縁部である。口縁部先端を玉縁状に収める。内外面と口縁部にロクロナデを施す。胎土は黄灰色を呈し、焼成は良好。口径は23.2㎝。

耕作関連土出土土器（図16　31～42）　土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器・輸入陶磁器が出土した。２Ｃ段階に属する土器群である。

31～33は土師器である。31・32は皿Ａである。体部は緩やかに外反して口縁部で上方に立ち上がり、端部を丸く収める。底部外面はオサエ、口縁部の内外と内面はヨコナデを施す。薄い器壁の皿である。33は高杯脚部である。心棒作り、脚部は側面にタテ方向のケズリを丁寧に施し、断面は八角形状を呈する。杯部はナデを施す。

34・35は灰釉陶器である。34は皿である。内外面にロクロナデを施す。底部は回転ヘラケズリを施す。貼り付け高台である。内面に施釉する。東海系。35は椀である。体部は外上方に伸び、口縁部は外反する。内外面に施釉する。内外面はロクロナデを施す。底部に回転ヘラケズリを施す。貼り付け高台である。

36～40は緑釉陶器である。36は皿底部である。内面はミガキ、底部に回転ヘラケズリを施す。貼り付け高台である。内外面に施釉する。猿投産。37・38は椀である。37は体部が緩やかに内湾しながら上方に伸びる。口縁部はわずかに外反する。内面底部に沈線がある。内外面に施釉する。内面及び外面上半にロクロナデを施す。体部下半及び底部に回転ヘラケズリを施す。猿投産。38は底部を欠く。体部内外面にロクロナデの後ミガキを施す。京都産。39は托である。底部及び受け部先端を欠く。ロクロナデの後、施釉する。径は14.6㎝。猿投産。40は唾壷である。壷部及び口縁部を欠く。ロクロナデの後、施釉する。

41は白磁椀である。口縁部は玉縁状を呈する。口径17.0㎝。

42は黒色土器の風字硯である。表裏面にはヨコ方向にヘラミガキを施した後、縁部に沿って丁寧なミガキを施す。

堀１出土土器（図16　43～46）　平安時代の須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器と江戸時代の土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・染付磁器が出土した。平安時代の土器群は混入品で、堀最下層から多く出土した。

43は土師器皿Ｎである。外面はオサエ、口縁端部にヨコナデ、内面にナデを施す。口径5.9㎝、

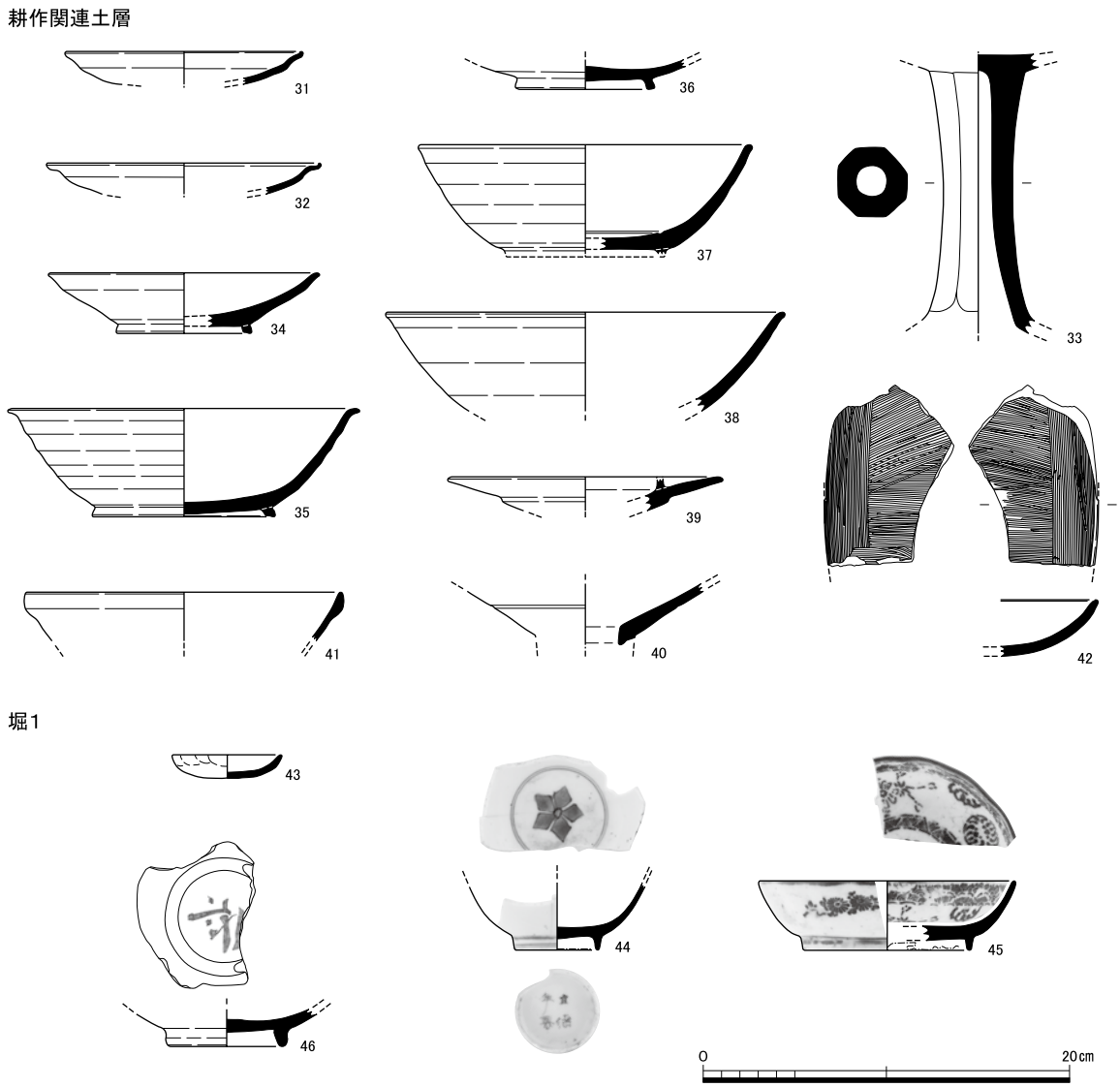


図16　出土土器実測図２（１：４）

器高1.3㎝。12Ａ段階に属する。堀１上層から出土した。

44・45は染付磁器である。44は椀である。内外面に施釉する。高台端部に釉ハギを施す。呉須で高台内に「宣徳年製」、内面底部に「五弁花文」を施す。肥前産。45は輪花皿である。高台内は露胎している。コバルトを使用した型紙刷りである。外面は「菊花文」、内面は「植物文」などを配する。瀬戸・美濃産。堀１上層から出土した。

46は灰釉陶器の底部である。高台内に判読不明の墨書がある。堀１最下層から出土した。

（３）瓦類（図17）

瓦１は複弁蓮華文軒丸瓦である。中房は平坦で圏線が巡る。大粒の蓮子を密に配する。複弁八葉とみられる。蓮弁は子葉が盛り上がり、輪郭線あり。間弁はＹ字形。外区は大粒の珠文が粗く巡る。瓦当部側面下半ヨコナデ、裏面ナデ。胎土は密で砂粒を含み、黄灰色を呈する。焼成は硬質。耕作関連土から出土した。6236E型式。唐招提寺に出土例がある。

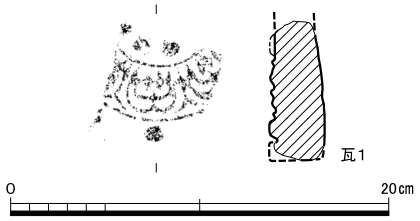


図17　出土瓦拓影及び実測図（１：４）

（４）動植物遺存体

動植物遺存体には、骨・貝・種実がある。

骨には、耕作関連土から出土したウシ上顎後臼歯（左）、堀１から出土したウシ大腿骨（左）、ヒト上腕骨（右）遠位、ヒト脛骨？（左右不明）がある。

貝には、堀１上層から出土したセタシジミ（左１右１不明１）２個体、ホラガイがある。ホラガイは殻頂部が切断され、殻口外側縁には墨の様な痕跡もみられることから、楽器としての利用を推定している[2)]。

種実には、平安時代の土坑から出土したモモがある。

註

１）　平尾政幸「土師器再考」『洛史　研究紀要　第12号』 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2019年

750年　840年　930年　1020年　1110年　1170年　1260年　1350年　1410年　1500年　1590年　1680年　1740年　1800年　1860年

1			2			3			4			5		6			7			8		9			10			11			12		13		14	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	A	B

２）　骨貝の同定は、東海大学人文学部の丸山真史氏に写真による正誤確認を依頼した。

参考文献

『平安京提要』 角川書店　1994年

『平城京・藤原京出土軒瓦型式一覧』 奈良市教育委員会　1996年

5．まとめ

今回の調査では、平安京遷都以前、平安時代前・中期、古代から中世、安土桃山時代以降の遺構を検出した。

平安京遷都以前　溝65を検出した。遺構の時期を示す遺物は出土していないが、平安時代の路面下層で検出したこと、主軸方位が正方位を指向しないことから、平安京遷都以前と推定できた。調査地は弥生時代から古墳時代の遺跡である西ノ京遺跡の南東部に位置しており、周辺調査（図９－調査21～24）では古墳時代またはその可能性のある溝を検出している。溝65もこの時期の遺構の可能性がある。

平安時代前・中期　西堀川と西堀川小路、平安京右京三条三坊十二町（以下、「十二町」とする）の宅地に関係する遺構を検出した。いずれの遺構も、主軸方位がほぼ正方位を指向する。

西堀川である溝47は、調査区東端で東西幅1.9ｍのみ確認できた。また、護岸のヒノキ材の杭列を検出した[1)]。

西堀川小路関連の遺構は、西堀川西側路面である路面27・42と、西側溝である溝29・73がある。路面の構築状況から、古い段階から順に、溝73を西側溝とする段階（路面１段階）、溝29を西側溝とする礫敷路面の段階（路面２段階）、側溝を持たず礫敷路面のみの段階（路面３段階）へと推移しつつ、一定期間、道路として機能していたことが明らかになった。

柱列30は、西堀川小路と十二町の境界にあたる、西堀川小路の西築地の推定位置で確認した。構造から築地ではなく、柵と考えられる。柱穴の検出状況から、補修または造り変えが推定でき、路面と同様に一定期間にわたって維持されていた可能性が高い。

十二町内では、柱列51や柱穴群・水溜55・土坑17などを検出した。明確な建物は確認できなかったが、出土した遺物から平安時代前期から中期にかけての土地利用の一端が明らかになった。

古代から中世　洪水層の直下で畦状遺構と耕作関連土、南北方向の溝28を確認した。今回確認した十二町内の宅地が廃絶する平安時代中期以降、調査地一帯は耕作地になったと考えられる。畦状遺構を平安時代の路面直上で検出したことから、西堀川小路もしくは十二町の境界部分が、当該期も土地境界として認識されていたと推察する。

耕作地として土地利用された時期を示す遺物は出土していない。しかし、調査地の北約650ｍ地点で実施された2012年調査では、今回調査で確認した洪水層と同様の砂礫層を確認しており、その時期は平安時代中期から室町時代に至る期間と指摘されている[2)]。上記調査で明らかとなった洪水層の時期と、今回確認した十二町内における宅地の廃絶時期に矛盾は認められない。当該地が耕作地として利用された時期は、十二町内における宅地関連の遺構が廃絶する平安時代中期頃から室町時代の間と考える。

安土桃山時代以降　御土居の堀・土塁、近現代の杭列を検出した。御土居の土塁は洪水層の直上で確認した。土塁はシルト質・砂質・礫質の構築土によって形成されており、構築の過程としては、土質が異なる構築土を交互に積み上げて土手状の高まりを複数形成して、その間の凹みに砂質

や礫質の構築土を充填するというプロセスを繰り返しているとみられる。

土塁の西側に位置する堀は、深さ約2.7ｍを測る。最下層から平安時代前期の遺物が多数出土しているが、下層遺構からの混入とみられる。堀の上層からは近現代の遺物が出土した。東肩口で検出した杭列は、当該期頃の遺構と考えられる。周辺住民への聞き取り調査によると、昭和40年代まで堀の部分は凹地、土塁の部分は高まりとして残されていたことが明らかとなっている。

註

１）　西堀川からヒノキ材の杭が出土した調査例として以下がある。

①　高橋　潔・モンペティ恭代『平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012－25　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2014年

②　平尾政幸・辻　純一「右京三条二坊」『昭和57年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1984年（本報告　図９－調査４）

③　布川豊治『平安京右京四条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015－1　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年

④　小檜山一良『平安京右京六条二坊六・十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007－3　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2007年

２）　前掲註１－①に同じ。

付表１　出土土器一覧表

番号	器種	器形	地区	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土色調	備考
1	土師器	椀Ac	2区	溝29	12.8			7.5YR7/4にぶい橙色	
2	土師器	椀Ac	2区	溝29	12.9			7.5YR7/4にぶい橙色	
3	土師器	皿Ac	2区	溝29	16.8			7.5YR7/6橙色	
4	土師器	皿Ac	2区	溝29	19.7			10YR7/3にぶい黄橙色	
5	土師器	皿Ac	2区	溝29	19.6			5YR7/6橙色	
6	土師器	杯Ac	2区	溝29	15.8			5YR6/6橙色	
7	土師器	杯Ac	2区	溝29	17.9	3.7	9.5	7.5YR7/4にぶい橙色	高台
8	土師器	杯Ac	2区	溝29	17.8			7.5YR7/6橙色	
9	土師器	甕	2区	溝29				10YR7/3にぶい黄橙色	
10	土師器	甕	2区	溝29	25.1			7.5YR7/6橙色	
11	須恵器	蓋	2区	溝29				N5/0灰色	扁平つまみ
12	須恵器	蓋	2区	溝29	13.9			N6/0灰色	口縁部
13	須恵器	壷	3区	溝29	14.0			N4/0灰色	頸部
14	須恵器	平瓶	2区	溝29				N6/0灰色	
15	須恵器	壷	2区	溝29			5.8	N6/0灰色	高台
16	灰釉陶器	浄瓶	2区	溝29				5Y8/1灰白色 釉:7.5Y6/2灰オリーブ色	注口
17	灰釉陶器	皿	2区	溝29			7.5	2.5Y8/1灰白色 釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色	底部
18	灰釉陶器	平瓶	2区	溝29			9.6	2.5Y7/2灰黄色	
19	緑釉陶器	椀	3区	溝29	13.0	4.3	6.0	10YR8/2灰白色 釉:7.5Y7/2灰白色	蛇の目高台 幡枝産
20	土師器	皿A	2区	溝47	13.9			10YR8/3浅黄橙色	
21	土師器	杯AL	2区	溝47				7.5YR8/4浅黄橙色	
22	土師器	高杯	2区	溝47				7.5YR7/4にぶい橙色	脚部面取りなし
23	須恵器	鉢	2区	溝47	23.0			N6/0灰色	
24	須恵器	甕	2区	溝47	17.9			7.5YR5/4にぶい褐色	
25	黒色土器	椀	2区	溝47			9.9	内面 N2/0黒色 外面 5YR7/6橙色	高台
26	土師器	皿A	1区	土坑17	14.9	1.5		7.5YR7/4にぶい橙色	
27	緑釉陶器	皿	1区	土坑17			6.8	10YR7/4にぶい橙色 釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色	平高台
28	須恵器	壷	2区	土坑17				N5/0灰色	墨書「馬□」
29	土師器	皿A	2区	水溜55	9.8			10YR7/3にぶい黄橙色	

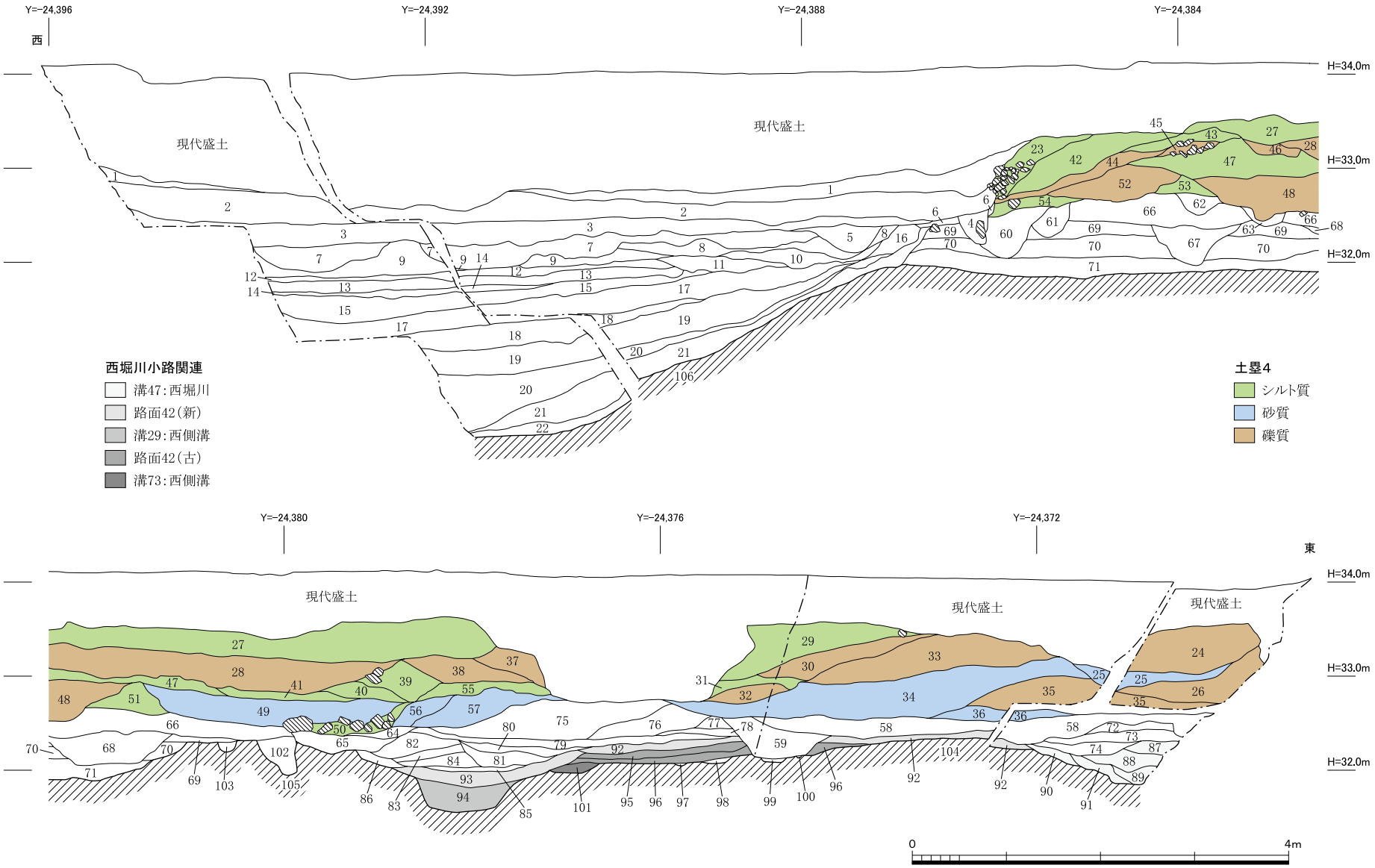
番号	器種	器形	地区	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土色調	備考
30	須恵器	鉢	2区	水溜55	23.2			2.5Y6/1黄灰色	
31	土師器	皿A	2区	耕作関連土層	12.9			10YR7/2にぶい黄橙色	
32	土師器	皿A	2区	耕作関連土層	14.9			7.5YR7/4にぶい橙色	
33	土師器	高杯	2区	耕作関連土層				5YR7/6橙色	脚部8面取り
34	灰釉陶器	皿	2区	耕作関連土層	14.6	3.3	7.4	5Y7/1灰白色 釉:5Y7/3浅黄色	東海系
35	灰釉陶器	椀	2区	耕作関連土層	18.8	5.9	9.9	5Y7/1灰白色 釉:5Y7/2灰白色	
36	緑釉陶器	皿	2区	耕作関連土層			7.2	5Y6/1灰色 釉:10YR6/2オリーブ灰色	猿投産
37	緑釉陶器	椀	2区	耕作関連土層	18.0			5Y7/1灰白色 釉:7.5Y6/3オリーブ黄色	猿投産
38	緑釉陶器	椀	2区	耕作関連土層	21.6			10YR8/3浅黄橙色 釉:5Y6/2灰オリーブ色	京都産
39	緑釉陶器	托	1区	耕作関連土層	14.6			N8/0灰白色 釉:7.5Y5/3灰オリーブ色	猿投産
40	緑釉陶器	唾壷	1区	耕作関連土層				2.5Y7/1灰白色 釉:10Y6/2オリーブ灰色	
41	輸入白磁	椀	2区	耕作関連土層	17.0			5Y8/1灰白色 釉:2.5Y7/2灰黄色	玉縁
42	黒色土器	風字硯	2区	耕作関連土層		3.1		N2/0黒色	
43	土師器	皿N	1区	堀1	5.9	1.3		10YR7/3にぶい黄橙色	
44	染付磁器	椀	1区	堀1			4.5	N9/0灰色	肥前 底部「宣徳年製」
45	染付磁器	皿	1区	堀1	13.9	3.8	9.0	N9/0灰色	瀬戸・美濃
46	灰釉陶器	皿	1区	堀1			6.1	2.5Y8/1灰白色 釉:5Y6/2灰オリーブ色	高台内墨書 混入

図　　版

第２面遺構平面図（１：150）

第１面遺構平面図（１：150）

1区・2区北壁オルソ写真（1：60）



1区・2区北壁断面図1 (1:60)

1区・2区北壁断面図2（土層名）

1 10YR2/1黒褐色砂泥 木片多量含
2 10YR2/1～2/2黒褐色砂泥 木片多量含
3 10YR2/1黒色粘質土 炭含
4 2.5Y8/1灰白色シルト(杭列)
5 2.5Y3/1～3/2黒褐色粗砂混じり砂泥(溝)
6 10YR3/2黒褐色砂泥 φ10cmの礫混
φ10cm以下の礫多量混
7 7.5YR3/2黒褐色砂礫 φ15cmの礫多量混 木片含
8 10YR3/2黒褐色砂質土 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土
ブロック含 φ4cmの礫少量混
9 2.5Y3/2黒褐色細砂 10YR3/2黒褐色細砂
10YR4/4褐色細砂まだらに中量混
10 7.5YR2/2黒褐色シルト 木片少量含
11 10YR3/3暗褐色粗砂～微砂 φ5cmの礫少量混
12 7.5Y4/1灰色細砂 植物片微量含
13 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗砂
14 2.5Y7/6明黄褐色細砂
15 2.5Y4/2暗灰黄色粗砂＋5Y4/1灰色細砂～シルト
16 2.5Y6/1黄灰色シルト
17 5Y4/1灰色細砂＋5Y3/1オリーブ黒色シルト
＋5Y4/1灰色粘土 互層堆積 植物片少量含
18 10YR5/2～4/2灰黄褐色小礫層 φ3cmの礫混
19 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト
20 10YR3/1黒褐色粘土質シルト
φ0.5cmの礫微量混 炭・骨片微量含
21 2.5Y3/1黒褐色砂泥 φ6cmの礫多量混
22 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト φ3cmの礫少量混
23 10YR4/6褐色砂泥 φ10cmの礫多量混
24 10YR7/4にぶい黄橙色砂礫 φ8cmの礫多量混
25 10YR8/2灰白色細砂 φ10cm以下の礫少量混
26 7.5YR4/6褐色砂礫 φ10cmの礫少量混
27 10YR3/4暗褐色砂泥 小礫混
28 10YR3/4暗褐色砂礫 φ3cmの礫密につまる
29 10YR3/3暗褐色砂泥 小礫混
30 10YR5/2灰黄褐色砂礫 φ10cm以下の礫多量混
31 10YR4/2灰黄褐色砂泥
32 7.5YR5/4にぶい褐色砂礫 φ10cm以下の礫多量混
33 10YR3/2黒褐色砂礫 φ14cmの礫多量混
34 7.5YR4/4褐色粗砂 φ10cmの礫少量混
35 7.5YR4/6褐色砂礫 φ10cmの礫少量混
36 7.5YR5/6明褐色粗砂～細

堀1上層
堀1中層
堀1下層
堀1最下層
土塁4

37 10YR6/2灰黄褐色砂礫 φ8cm以下の礫中量混
38 10YR3/4暗褐色砂礫 φ5cm以下の礫多量混
39 10YR7/3にぶい黄褐色シルト φ5～20cmの礫多量混
40 10YR4/6褐色砂泥
41 10YR4/2灰黄褐色砂泥
42 10YR4/4褐色泥砂 φ6cmの礫中量混 炭微量含
43 10YR5/6黄褐色砂泥
44 10YR5/4褐色砂礫 φ10cm以下の礫多量混
45 10YR4/4褐色砂礫 φ10cmの礫多量混
46 10YR3/4暗褐色砂礫 φ3cm以下の礫多量混
47 10YR5/6黄褐色砂泥
48 10YR3/4暗褐色砂礫 φ0.2～12cmの礫多量混
49 2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂 φ1～5cmの礫多量混
50 10YR3/3暗褐色シルト φ5～30cmの礫少量混
51 10YR5/2灰黄褐色泥砂 φ2～5cmの礫中量混
52 10YR6/4にぶい黄橙色砂礫 φ5cm以下の礫多量混
53 10YR5/2灰黄褐色泥砂 φ2～5cmの礫中量混
54 10YR6/4にぶい黄橙色泥砂 φ10cm以下の礫微量混
55 10YR4/4褐色砂泥 φ10cmの礫多量混
56 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂
57 10YR4/4褐色細砂
58 10YR8/2灰白色砂礫 φ3～5cmの礫多量混
59 10YR4/4褐色砂礫 φ0.5～10cmの礫多量混
60 7.5YR4/3褐色泥砂 φ3cm以下の礫微量混
61 10YR5/2灰黄褐色泥砂 φ10cmの礫微量混
62 2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫 φ1～5cmの礫多量混
63 10YR3/4暗褐色砂礫 φ0.2～3cmの礫多量混
64 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2cm以下の礫少量混
65 10YR3/1黒褐色泥砂 φ8cm以下の礫少量混
66 10YR2/2黒褐色シルト φ2～10cmの礫少量混
炭・土師片少量含
67 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2cm以下の礫少量混
68 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ7cm以下の礫少量混
69 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土 φ10cmの礫少量混
炭少量、土師片微量含
70 2.5Y3/2～3/3黒褐色粘土 φ8cmの礫少量混
炭・土師片少量含
71 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土 φ2cmの礫微量混
72 10YR4/2灰黄褐色微砂 φ3～4cmの礫少量混
73 10YR4/2灰黄褐色微砂～シルト 上面に酸化あり
74 10YR4/6褐色砂礫 φ0.5～4cmの礫多量混

土塁4
洪水層
耕作関連土

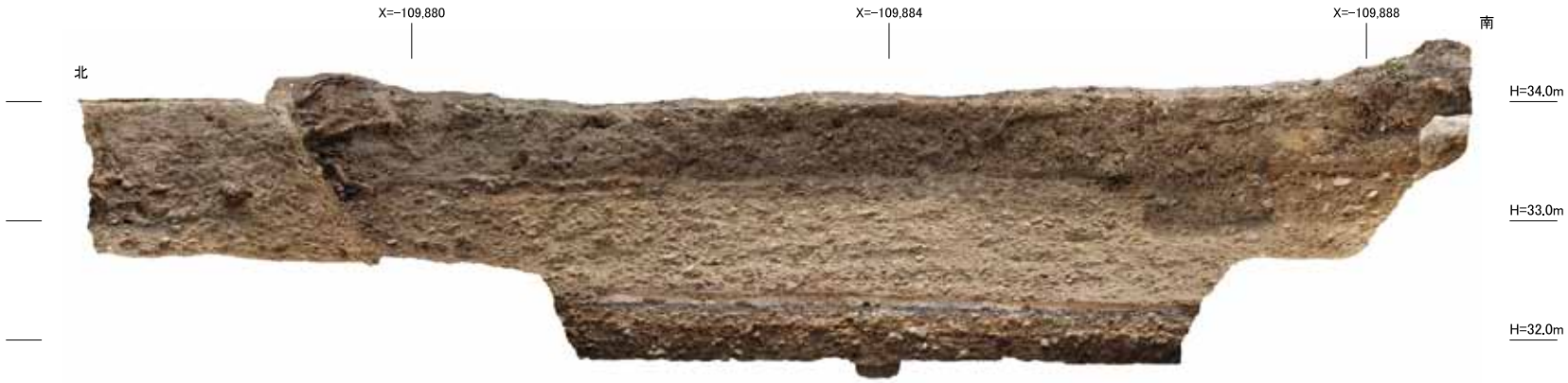
75 10YR4/4褐色泥砂 φ0.5～2cmの礫微量混
76 10YR4/6褐色砂礫 φ2～5cmの礫多量混
78 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂
79 10YR4/4褐色砂礫 φ0.5～7cmの礫多量混
80 10YR2/2黒褐色シルト φ0.5～4cmの礫少量混
81 10YR3/4暗褐色砂礫 φ0.5～6cmの礫多量混
82 2.5Y3/1黒褐色シルト φ1～3cmの礫少量混
83 10YR3/2黒褐色シルト φ1～4cmの礫少量混
炭少量含
84 10YR2/2黒褐色微砂～シルト
85 10YR4/6褐色砂礫 φ0.5～5cmの礫多量混
86 10YR4/2灰黄褐色微砂～シルト
87 10YR3/2黒褐色シルト φ1～4cmの礫少量混
88 10YR4/4褐色粗砂 φ4cm以下の砂礫中量混
89 10YR3/4暗褐色砂礫 φ5cm以下の礫多量混
90 7.5YR3/2黒褐色砂礫 φ3cm以下の礫中量混
91 10YR2/3黒褐色シルト やや粘質
92 10YR3/2黒褐色細砂～シルト やや粘質
φ2～3cmの礫少量混
93 10YR4/4褐色砂礫 φ0.5～6cmの礫多量混
94 10YR4/4褐色砂礫 φ0.5～5cmの礫多量混
95 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
φ0.5～7cmの礫多量混
96 7.5YR3/2暗褐色砂泥 φ4cm以下の礫多量混
97 10YR3/1黒褐色シルト(轍)
98 10YR3/2黒褐色シルト φ1～3cmの礫少量混(轍74)
99 10YR3/1黒褐色シルト(轍72)
100 10YR3/1黒褐色シルト(轍)
101 10YR3/2黒褐色シルト
102 2.5Y4/1黄灰色微砂～シルト
103 2.5Y4/2暗灰黄色微砂～シルト
104 10YR4/2灰黄褐色シルト
105 2.5Y5/1黄灰色シルト
106 2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫

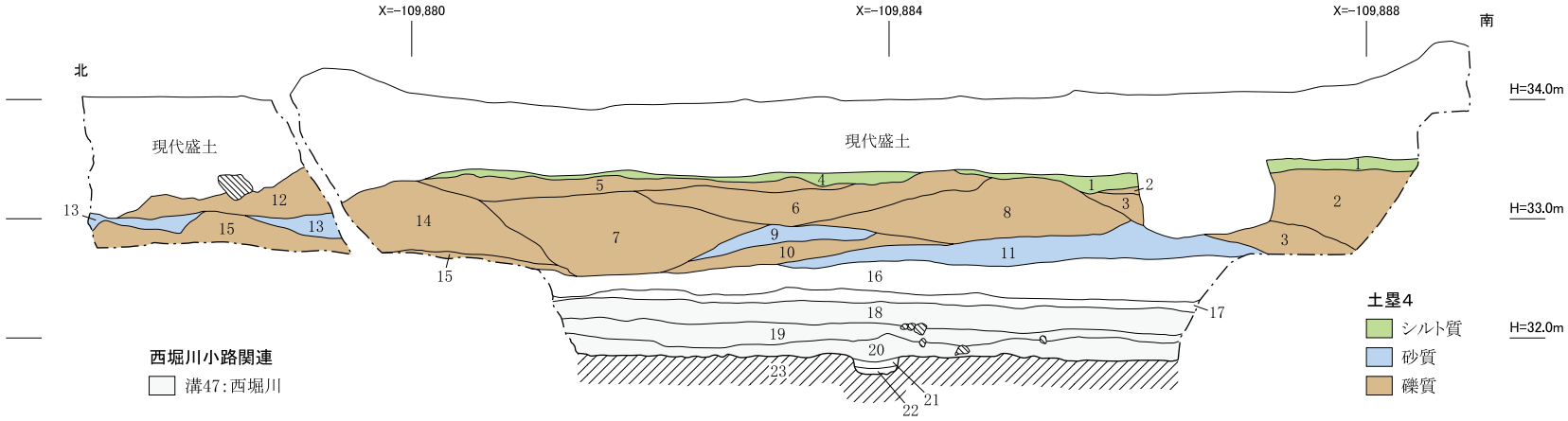
畔状遺構
溝47:西堀川
路面42(新)
溝29:西側溝
路面42(古)
溝73:西側溝
柱列30 柱穴120
地山

図版5 遺構

図版6 遺構

2区東壁オルソ写真・断面図（1：60）





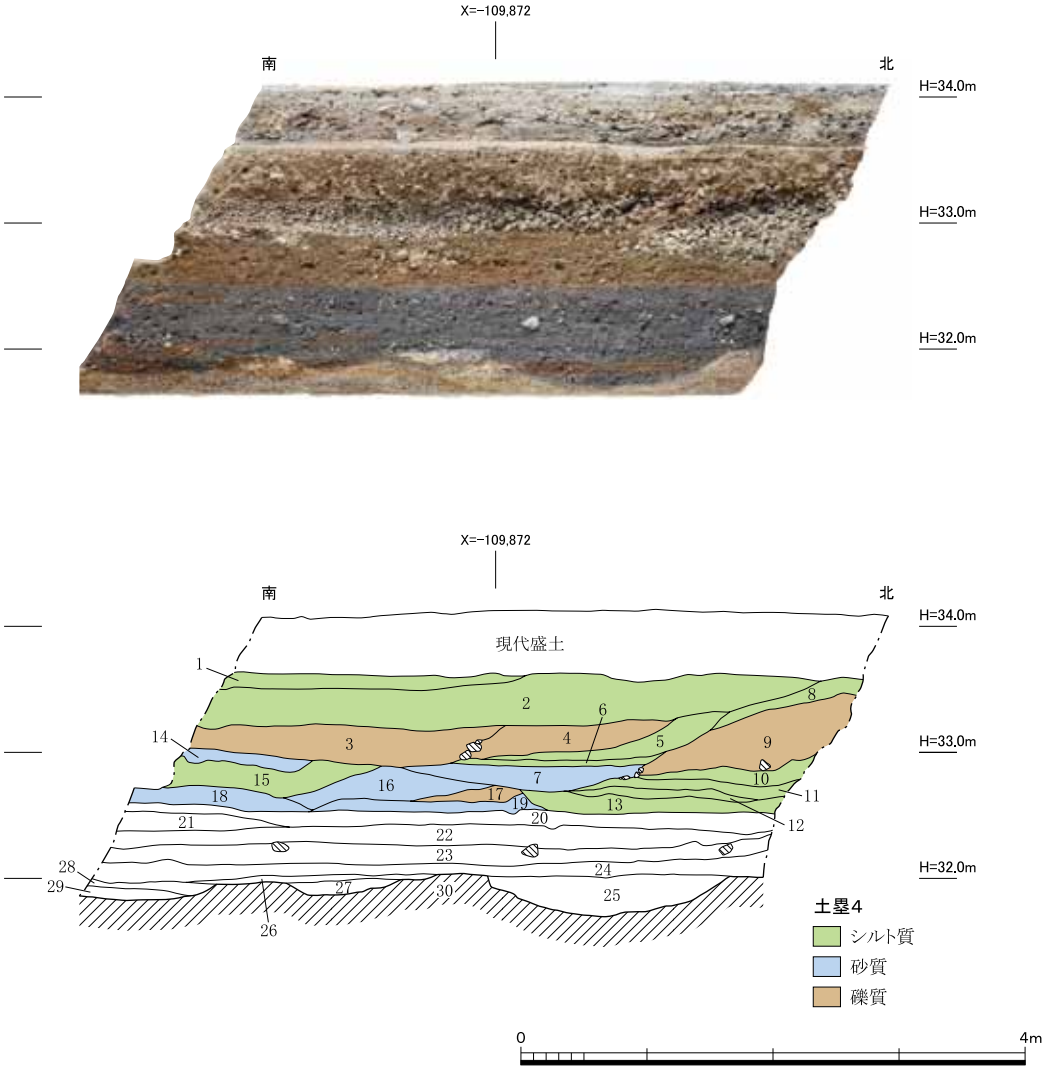
1　10YR6/6明黄褐色シルト
2　10YR7/4にぶい黄橙色砂礫　φ15cm以下の礫中量混
3　10YR7/3にぶい黄橙色砂礫　φ10cm以下の礫中量混
4　10YR6/4にぶい黄橙色細砂～シルト
5　10YR7/4にぶい黄橙色砂礫　φ2～8cm以下の礫中量混
6　7.5YR7/3にぶい橙色砂礫　φ2～8cm以下の礫中量混
7　10YR8/4浅黄橙色砂礫　φ10cm以下の礫多量混
8　10YR8/3浅黄橙色砂礫　φ7cm以下の礫中量混
―― 土墨4

9　10YR8/2灰白色細砂　φ10cm以下の礫少量混
10　10YR7/3にぶい黄橙色砂礫　φ10cm以下の礫多量混
11　10YR7/4にぶい黄橙色粗砂～細砂
φ5cm以下の礫中量混
12　10YR6/6明黄褐色砂礫　φ3～8cmの礫中量混
13　10YR8/2灰白色細砂　φ10cm以下の礫少量混
14　7.5YR4/6褐色砂礫　φ10cmの礫少量混
15　7.5YR4/6褐色砂礫　φ10cmの礫少量混
―― 土墨4

16　10YR8/2灰白色砂礫　φ3～5cmの礫多量混 ―― 洪水層
17　10YR4/2灰黄褐色微砂～シルト　上面に酸化あり ―― 耕作関連土
18　10YR4/4褐色粗砂　φ4cm以下の砂礫中量混
19　10YR3/4暗褐色砂礫　φ5cm以下の礫多量混
20　7.5YR3/2黒褐色砂礫　φ3cm以下の礫中量混
―― 溝47：西堀川
21　7.5YR3/1黒褐色シルト～粘土
22　10YR3/1黒褐色粘土
―― 溝65
23　10YR6/6明黄褐色～10YR7/3にぶい黄橙色シルト ―― 地山

0　4m

3区西壁オルソ写真・断面図（1：60）



1　7.5YR5/4にぶい褐色砂泥
2　7.5YR4/4褐色砂泥　φ12cmの礫少量混
3　φ3～6cmの小礫密集
4　φ5～10cmの礫密集
5　7.5YR3/3暗褐色泥砂
6　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥
7　7.5YR4/3褐色粗砂　小礫混
8　7.5YR4/4褐色砂泥　φ12cmの礫少量混
9　10YR5/4にぶい黄褐色礫層　φ5～10cmの礫多量混
10　10YR5/3にぶい黄褐色泥砂　小礫混
11　10YR5/2にぶい灰黄褐色砂泥
12　10YR4/4褐色微砂～シルト
13　7.5YR5/3にぶい褐色泥砂
14　7.5YR5/4にぶい褐色細砂　φ10cm以下の礫多量混
15　7.5YR4/4褐色砂泥
16　10YR4/4褐色粗砂　φ15cmの礫中量混
17　7.5YR5/6明褐色砂礫　φ5cm以下の礫多量混
18　5YR3/6暗赤褐色粗砂　小礫混
19　10YR4/6褐色粗砂

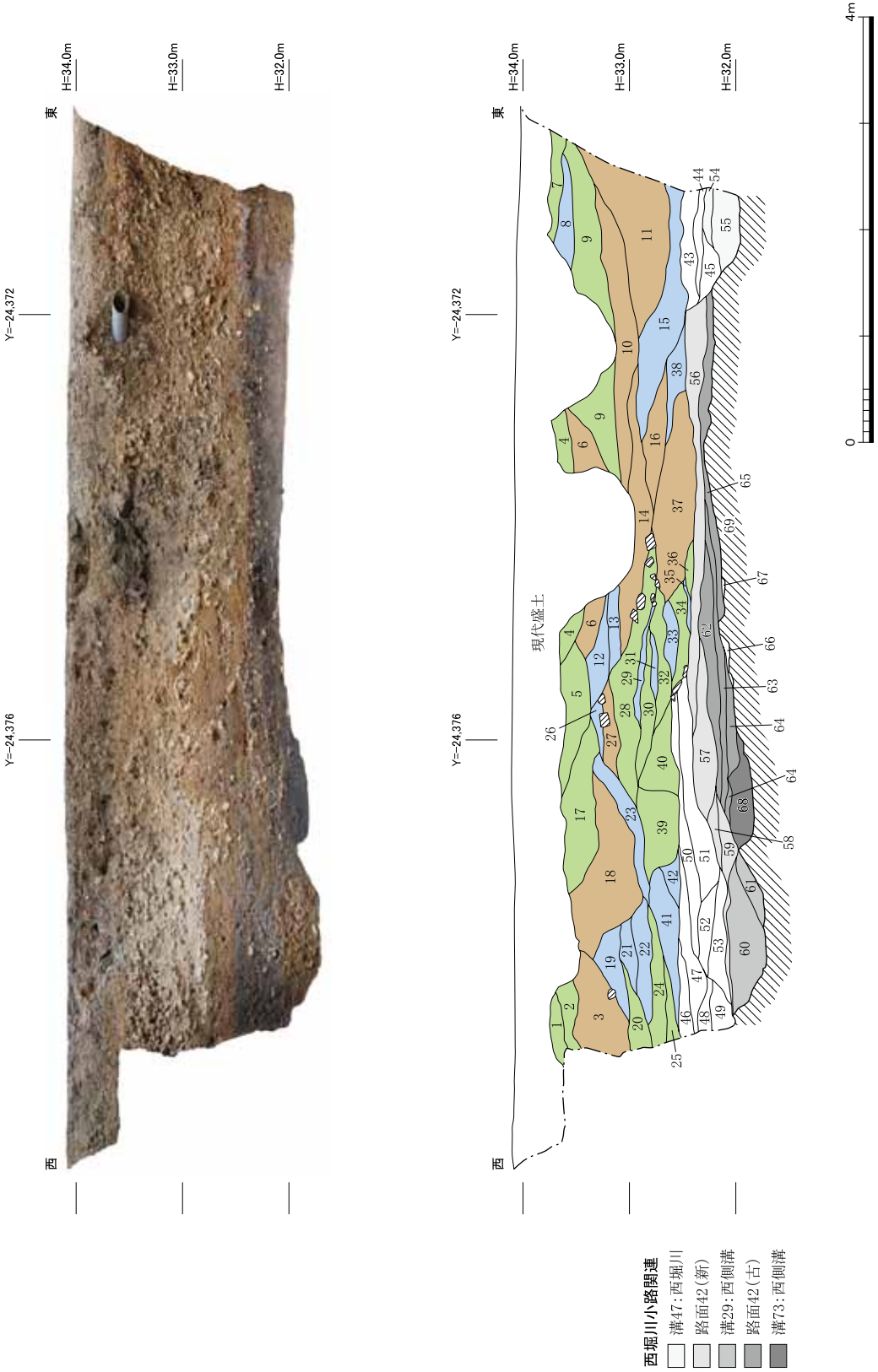
土墨4

20　7.5YR3/1黒褐色微砂～シルト　小礫混
21　7.5YR4/3褐色粗砂～砂礫　小礫混
22　10YR3/1黒褐色シルト 砂混じり　φ3cmの礫少量混
23　10YR3/1黒褐色シルト　φ15cmの礫少量混
24　10YR3/3暗褐色シルト 砂混じり

耕作関連土

25　7.5YR3/2黒褐色砂礫
26　7.5YR4/4褐色細砂 固く締まる　φ5cmの礫少量混
27　7.5YR4/6褐色砂礫
28　10YR2/1黒色シルト
29　7.5YR3/4暗褐色砂礫～5YR3/4暗赤褐色砂礫　小礫混
30　10YR4/2灰黄褐色シルト　φ2～3cmの礫少量混

地山



３区北壁オルソ写真・断面図１（１：60）

3区北壁断面図2（土層名）

1 7.5YR5/3にぶい褐色砂泥
2 7.5YR4/4褐色砂泥 φ12cmの礫少量混
3 10YR5/4にぶい黄褐色礫 φ5～10cmの礫多量混
4 10YR7/4にぶい黄橙色細砂～シルト
5 7.5YR7/3にぶい橙色細砂～シルト φ3cmの礫微量混
6 10YR6/4ぶい黄橙色礫 φ5～10cmの礫多量混
7 10YR6/6明黄褐色細砂～シルト
8 7.5YR5/6明褐色細砂 φ3cmの礫多量混
9 10YR6/8明黄褐色シルト φ5～8cmの礫多量混
10 7.5YR4/6褐色砂礫 φ3～10cmの礫多量混
11 10YR7/3にぶい黄橙色砂礫 φ3～10cmの礫多量混
12 7.5YR7/4にぶい橙色細砂 φ3cm以下の礫中量混
13 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
14 10YR6/4にぶい黄橙色砂礫 φ3～10cmの礫多量混
15 7.5YR6/6橙色細砂 φ2～3cmの礫少量混
16 10YR8/4浅黄橙色砂礫 φ3～5cmの礫少量混
17 10YR5/3にぶい黄褐色シルトφ15～12cmの礫多量混
18 10YR6/6明黄褐色砂礫 φ0.5～12cmの礫多量混
19 10YR5/6にぶい黄褐色細砂 φ0.5～6cmの礫多量混
20 10YR5/3にぶい黄褐色泥砂 小礫混
21 10YR7/2にぶい黄橙色粗砂 φ10cm以下の礫微量混
22 10YR7/1灰白色粗砂 φ10cm以下の礫中量混
23 10YR8/2灰白色粗砂 φ8cm以下の礫中量混
24 10YR5/2にぶい灰黄褐色砂泥
25 7.5YR5/3にぶい褐色泥砂
26 7.5YR6/3にぶい褐色粗砂
27 7.5YR7/3にぶい橙色砂礫 φ5～10cmの礫多量混
28 10YR5/6黄褐色シルト φ5～10cmの礫中量混
29 10YR6/6明黄褐色粗砂 φ4cm以下の礫少量混
30 7.5YR6/4にぶい橙色シルト
31 7.5YR6/3にぶい褐色粗砂 φ5cm以下の礫少量混
32 7.5YR5/2灰褐色シルト
33 7.5YR6/3にぶい褐色粗砂 φ2cm以下の礫少量混
34 7.5YR5/4にぶい褐色シルト
35 7.5YR5/6明褐色粗砂

土塁4

36 7.5YR7/2明褐灰色シルト
37 10YR7/4にぶい黄橙色砂礫 φ2～5cmの礫少量混
38 10YR8/4浅黄橙色粗砂～細砂 φ3～5cmの礫少量混
39 10YR3/4暗褐色砂泥 φ0.5～8cmの礫少量混
40 10YR4/4褐色砂泥 φ8cmの礫中量混
41 10YR7/3にぶい黄橙色粗砂～細砂
42 2.5Y5/2暗灰黄色粗砂

土塁4

43 10YR4/2灰黄褐色微砂～シルト 上面に酸化あり
44 7.5YR5/6明褐色粗砂
45 10YR3/2黒褐色砂泥 φ8cmの礫微量混
46 7.5YR3/1黒褐色微砂～シルト 小礫混
47 10YR3/1黒褐色シルト 砂混じり φ3cmの礫少量混
48 10YR3/1黒褐色シルト φ15cmの礫少量混
49 10YR3/3暗褐色シルト 砂混じり

耕作関連土

50 10YR4/2灰黄褐色微砂
51 7.5YR3/1黒褐色微砂 7.5YR4/4～10YR4/4褐色粗砂含
52 10YR3/1黒褐色シルト φ0.5～4cmの礫少量混
53 2.5Y5/1黄灰色シルト φ0.5～4cmの礫少量混

畦状遺構

54 10YR3/4暗褐色砂礫 φ5cm以下の礫多量混
55 10YR7/3にぶい黄橙色砂礫 φ2～5cmの礫少量混

溝47:西堀川

56 2.5Y3/1黒褐色シルト φ1～3cmの礫中量混
57 10YR5/1褐灰色シルト φ1～3cmの礫多量混
58 10YR4/2灰黄褐色シルト φ1cm以下の礫少量混
59 2.5YR4/1黄灰色シルト φ3cm以下の礫少量混

路面42(新)

60 10YR3/4暗褐色砂礫 φ0.5～4cmの礫多量混
61 10YR3/1黒褐色シルト やや粘質

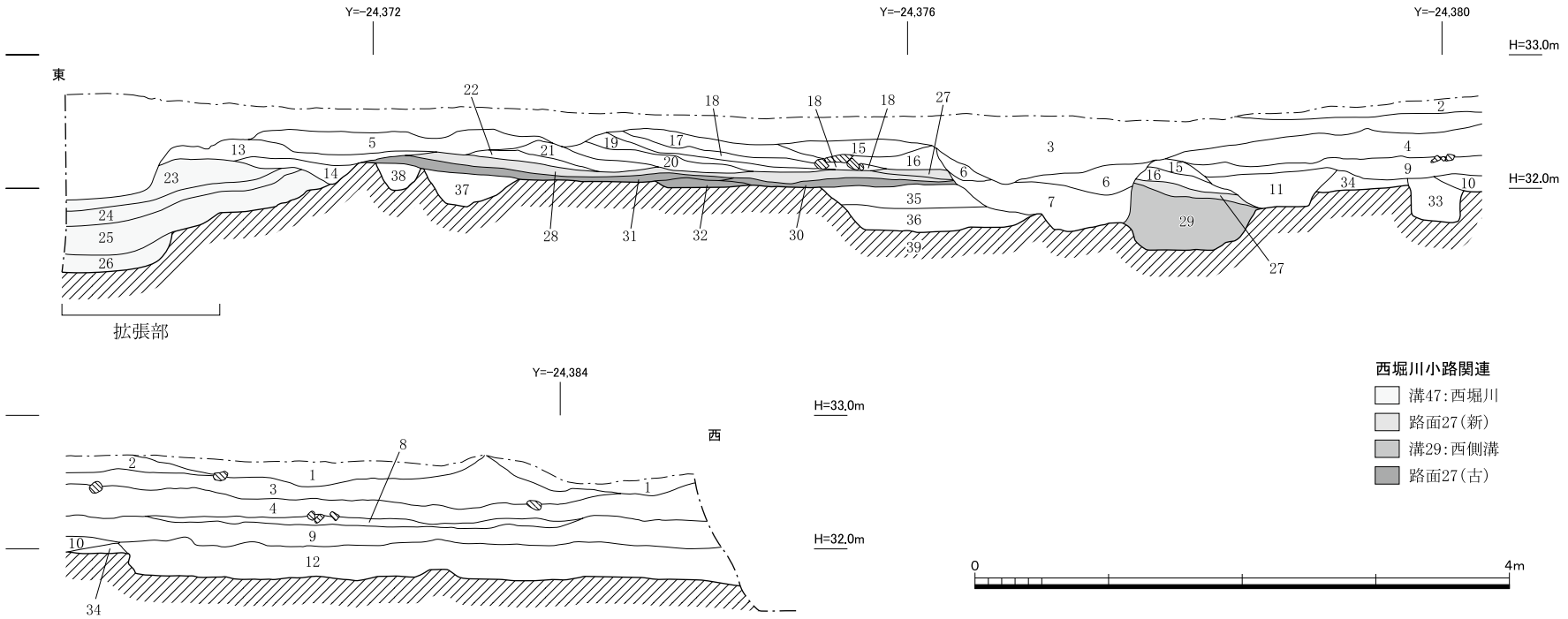
溝29:西側溝

62 10YR3/1黒褐色シルト 砂混じり φ3cmの礫少量混
63 10YR3/3暗褐色砂泥 φ1～3cmの礫中量混
64 10YR2/1黒色シルト やや粘質 φ2～7cmの礫少量混
65 10YR4/1褐灰色シルト φ1～3cmの礫少量混

路面42(古)

66 10YR3/2黒褐色シルト φ1～3cmの礫少量混(轍74)
67 10YR3/1黒褐色シルト(轍72)
68 10YR2/1黒色シルト やや粘質 — 溝73:西側溝
69 10YR7/3にぶい黄橙色シルト — 地山

2区南壁中段断面図（1：50）



1 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 φ5cmの礫少量混
2 7.5YR2/3極暗褐色砂礫～粗砂 φ5cmの礫多量混
3 10YR8/2灰白色砂礫 φ3～5cmの礫多量混
4 7.5YR6/4にぶい橙色砂礫 φ15cmの礫多量混
5 10YR5/3にぶい黄褐色細砂 φ15cmの礫少量混
洪水層

6 10YR6/3にぶい黄橙色砂礫 φ5cmの礫中量混
7 7.5YR4/3褐色砂礫 固く締まる φ9cmの礫多量混
溝28

8 7.5YR2/1黒色シルト
9 10YR3/1黒褐色シルト やや砂質
10 10YR3/2黒褐色シルト φ4cmの礫微量混
11 10YR3/1黒褐色シルト φ4cmの礫微量混
12 10YR3/1～4/1黒褐色シルト φ7cmの礫微量混
13 10YR4/2灰黄褐色微砂～シルト 上面に酸化あり
14 10YR3/2黒褐色砂泥 φ8cmの礫微量混
耕作関連土

15 10YR3/3暗褐色泥砂 φ4cmの礫中量混
16 7.5YR4/3褐色泥砂 小礫混
17 7.5YR3/4暗褐色粗砂 φ5cmの礫少量混
18 7.5YR3/2黒褐色シルト φ4cmの礫少量混
19 10YR6/4にぶい黄褐色シルト～微砂
20 10YR2/2黒褐色砂泥 φ5cmの礫微量混
21 7.5YR3/3暗褐色細砂 φ7cmの礫中量混
7.5YR5/2灰褐色シルトブロック含む
22 10YR2/2～2/3黒褐色シルト
畔状遺構

23 10YR4/4褐色粗砂 φ4cm以下の砂礫中量混
24 10YR3/4暗褐色砂礫 φ5cm以下の礫多量混
25 7.5YR3/2黒褐色砂礫 φ3cm以下の礫中量混
26 2.5Y3/2～3/3暗オリーブ褐色粘土
φ3cmの礫少量混
溝47：西堀川

27 7.5YR3/1黒褐色シルト やや砂質
28 7.5YR4/6褐色微砂＋7.5YR5/6明褐色細砂 礫混じり
路面27（新）

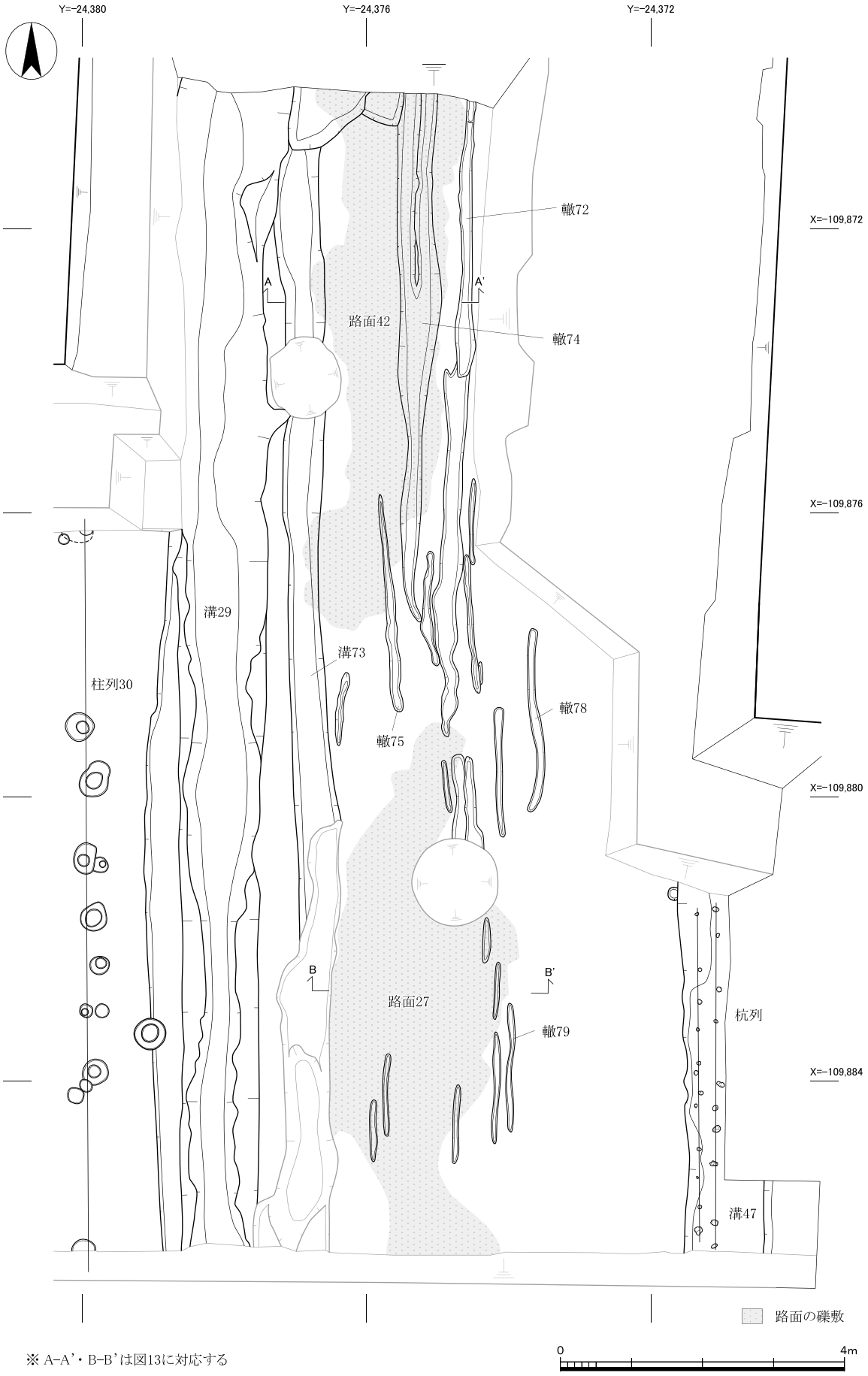
29 7.5YR3/4暗褐色砂礫 固く締まる φ3cmの礫中量混
溝29：西側溝

30 10YR3/2黒褐色シルト 砂混じり φ6cmの礫多量混
31 7.5YR3/1黒褐色シルト 砂混じり
32 10YR3/2黒褐色シルト 砂混じり φ6cmの礫多量混
路面27（古）

33 7.5YR3/1黒褐色シルト
2.5Y6/3黄褐色シルトブロック少量混
柱列30 柱穴39

34 7.5YR3/1黒褐色シルト やや粘質
35 7.5YR3/1黒褐色シルト～粘土
36 10YR3/1黒褐色粘土
溝65

37 10YR2/1黒色シルト やや粘質
38 10YR2/1黒色シルト 砂混じり
39 10YR4/2灰黄褐色シルト～粘土
地山

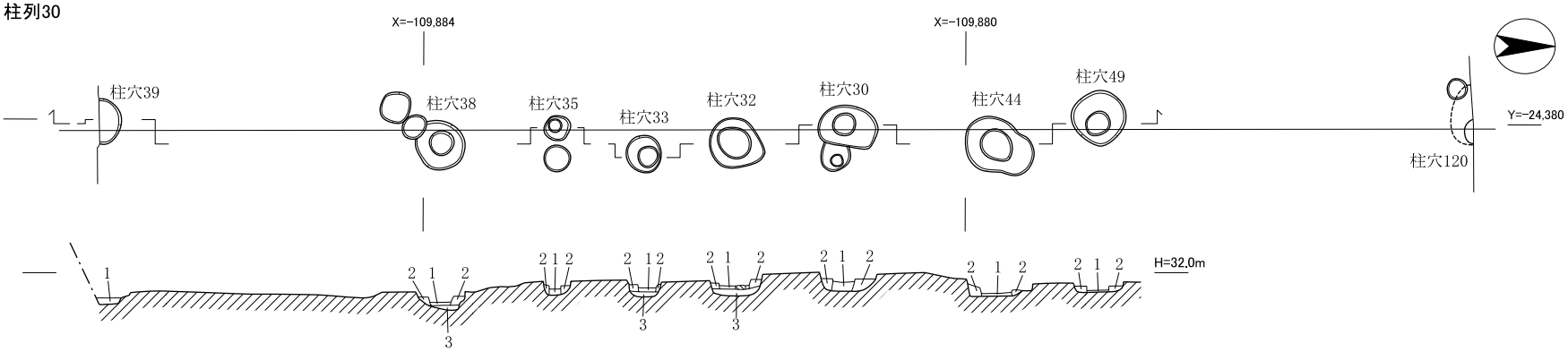


※ A-A'・B-B'は図13に対応する

西堀川小路関連遺構平面図（1：80）

柱列30・51実測図（1：50）

柱列30



柱穴39
1　7.5YR3/1黒褐色シルト
　2.5Y6/3黄褐色シルトブロック少量混

柱穴38
1　2.5Y2/1黒褐色粘土　炭含
2　2.5Y2/1～3/1黒褐色粘土　炭微量含
3　2.5Y4/2暗灰黄色シルト

柱穴35
1　2.5Y3/2黒褐色粘土　炭微量含
2　2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土　炭微量含

柱穴33
1　2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土
　2.5Y4/1黄灰色粘土混　炭微量含
2　2.5Y3/2黒褐色粘土
3　2.5Y3/2～3/3黒褐色粘土

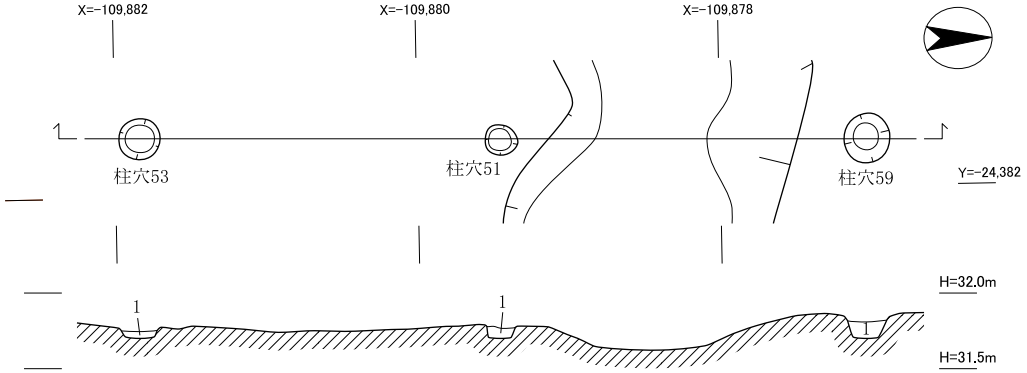
柱穴32
1　2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土　炭・土師片微量含
2　2.5Y3/2黒褐色粘土
3　2.5Y3/2～3/3黒褐色粘土

柱穴30
1　2.5Y3/2黒褐色粘土　炭微量含
2　2.5Y3/1～3/2黒褐色粘土
　2.5Y4/1黄灰色粘土混　炭微量含

柱穴44
1　2.5Y3/2黒褐色粘土
　2.5Y4/1黄灰色粘土少量混
2　2.5Y3/1黒褐色粘土　粗砂微量混
　2.5Y4/1黄灰色粘土少量混

柱穴49
1　2.5Y3/2黒褐色粘土
2　2.5Y3/1～3/2黒褐色粘土
　2.5Y4/1黄灰色粘土少量混　炭微量含

柱列51



柱穴53
1　2.5Y2/1～3/1黒褐色粘土

柱穴51
1　2.5Y3/1黒褐色粘土

柱穴59
1　5Y3/1オリーブ黒色粘土

1　１区第２面全景（北から）

2　２区第２面全景（西から）

図版14　遺構

1　３区全景（東から）

2　２区溝65（南西から）

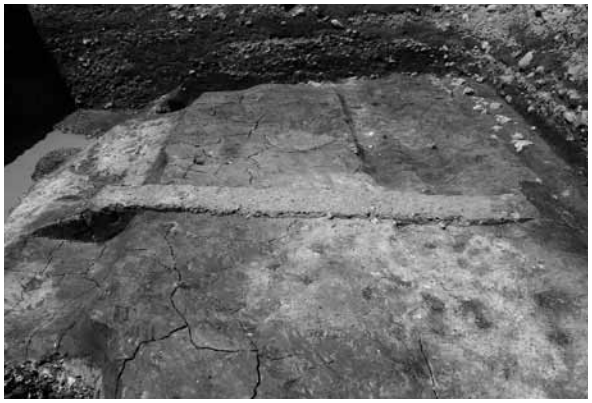
1　２区西堀川小路関連遺構（北から）

2　２区溝47（北から）

3　２区溝47 杭19・20（北から）

1　２区路面27（北から）

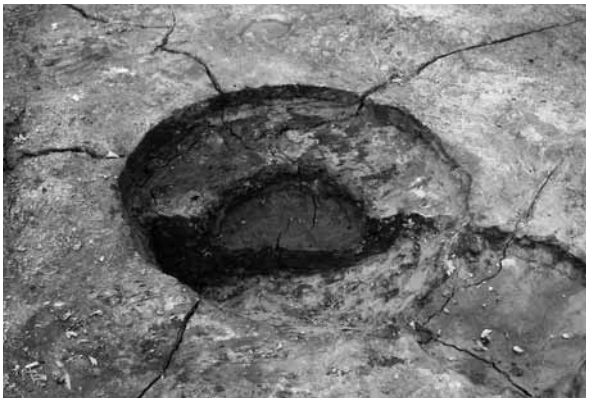
2　２区路面27セクション断面（南から）



3　３区路面42セクション断面（南から）

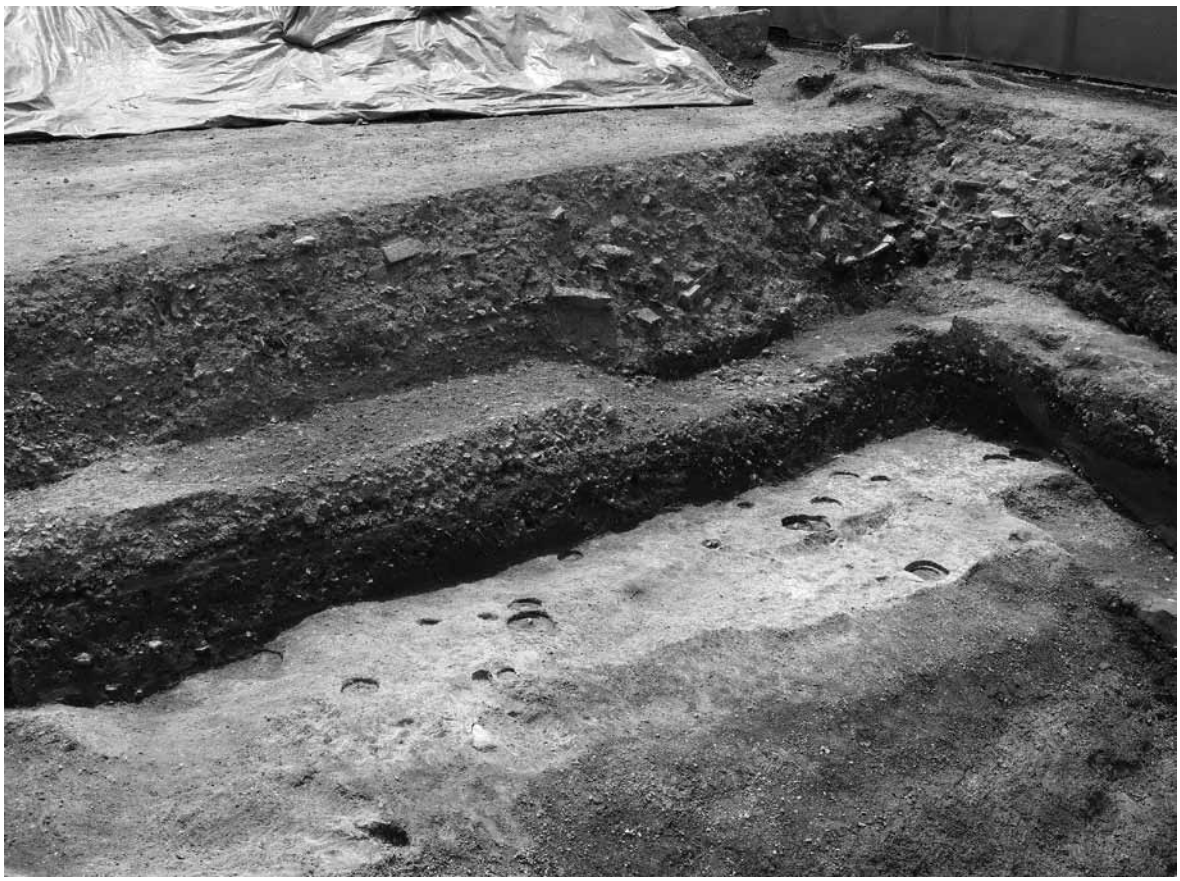
4　２区溝73、轍75・78（北から）

1　２区柱列30（南から）



2　２区柱列30柱穴38（西から）

3　２区溝29断面（南から）



4　１区柱穴群（北西から）

1　１区第１面全景（北から）

2　２区第１面全景（西から）

1　４区全景（西から）

2　１区堀１断面（南西から）

1　１区土塁４（北西から）

2　１区土塁４西肩礫集中部（北西から）

3　１区土塁４西肩部断面（南西から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうにぼうじゅうにちょうあと・おどいあと・にしのきょういせき
書名	平安京右京三条二坊十二町跡・御土居跡・西ノ京遺跡
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０２３－４
編著者名	小檜山一良・中谷正和
編集機関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発行所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発行年月日	西暦2024年３月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京跡（へいあんきょうあと） 御土居跡（おどいあと） 西ノ京遺跡（にしのきょういせき）	京都市中京区（きょうとしなかぎょうく） 西ノ京新建町（にしのきょうしんたてちょう） 12-38	26100	1 149 461	35度 00分 33秒	135度 43分 58秒	2023年４月17日～2023年８月１日	476.45㎡	集合住宅新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 御土居跡 西ノ京遺跡	都城跡 土塁跡 散布地	平安京遷都以前	溝		平安時代前期の西堀川小路西側溝、路面、轍、西堀川を検出した。 安土桃山時代の御土居の堀と土塁を検出した。
		平安時代前・中期	溝、路面、轍、柱列、水溜、土坑、柱穴群	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、木製品、種実	
		古代～中世	溝、畦状遺構、耕作関連土	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、銭貨、動物遺存体	
		安土桃山時代以降	堀、土塁、杭列	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類、銭貨、金属製品、木製品、動物遺存体	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2023-4

平安京右京三条二坊十二町跡・御土居跡・西ノ京遺跡

発行日　2024年3月29日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　℡ 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番
〒602-8358　℡ 075-467-5151